ĺΗ 第Ⅱ編第2章 ①法面工 ①-4コンクリート法枠工 2-4 機種の選定 2-4 機種の選定 $\Pi - 2 - (1) - 15$ 機械・規格は、次表を標準とする。 機械・規格は、次表を標準とする。 (1)231表2.2 機種の選定 表2.2 機種の選定 作業種別 機械名 単位 数量 摘要 作業種別 機械名 規 格 単位 数量 摘 要 規 格 コンクリート コンクリート トラック架装・ブーム式 投 入 打 設 ポ ン プ 車 圧送能力90~110㎡/h プーム打設及び配管打設 コンクリート コンクリート トラック架装・ブーム式 投入 打 設 ポ ン プ 車 圧送能力90~110㎡/h プーム打設及び配管打設 台 1 台 1 に適用 に適用 型 枠 エ ラフテレーン 油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊 型 枠 エ ラフテレーン 油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊 (注) 1. 現場条件により、上表により難い場合は、別途考慮する。 2. ラフテレーンクレーンは、法尻からの最大法直高4m以上の現場において、全数量に適用する。 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 (注) 1. 現場条件により、上表により難い場合は、別途考慮する。 2. ラフテレーンクレーンは、法尻からの最大法直高4m以上の現場において、全数量に適用する。 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 2-5 コンクリート投入打設 2-5 コンクリート投入打設 2-5-1 人力打設 2-5-1 人力打設 人力によるコンクリート投入打設は、「第II編第4章①コンクリート工」の小型構造物による。 人力によるコンクリート投入打散は、「第II編第4章①コンクリート工」の小型構造物による。 2-5-2 コンクリートポンプ車打設 2-5-2 コンクリートポンプ車打設 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛は、次表を標準とする。 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛は、次表を標準とする。 ただし, コンクリート混合物の使用数量は, 次式による。 ただし、コンクリート混合物の使用数量は、次式による。 使用数量 (m) =設計数量 (m) × (1+K) ······式5. 1 使用数量 (m) = 設計数量 (m) × (1+K) ……式5. 1 K:ロス率 (+0.15) K:ロス率 (+0.15) 表2.3 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛 (100㎡当り) 表2.3 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛 (100㎡当り) 単 位 数 量 単 位 数 量 名 称 名 称 土 木 一 般 世 話 役 人 3.8 土 木 一 般 世 話 役 人 4.22 殊 作 業 員 殊 作 業 9.78 8.8 通 作 業 員 通 作 業 員 13.9 15, 44 コンクリートポンプ車運転 コンクリートポンプ車運転 22. 7 25, 22 (注) 1. 上表は、法枠本体の投入打設歩掛であり、養生の労務を含む。2. コンクリートポンプ車の配管打設の場合の圧送管組立・撤去歩掛は、「第Ⅱ編第 (注) 1. 上表は,法枠本体の投入打設歩掛であり,養生の労務を含む。 2. コンクリートポンプ車の配管打設の場合の圧送管組立・撤去歩掛は,「第Ⅱ編第 4章①コンクリートエ」による。
3. 諸維費は、コンクリートペイブレータの機械損料、運転経費及び養生材料等の費 4章(コンクリートエ」による。
3. 諸雑費は、コンクリートバイブレータの機械損料、運転経費及び養生材料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 2-6 アンカーエ 2-6 アンカーエ アンカーが必要な場合は、次表により計上する。 アンカーが必要な場合は、次表により計上する。 表2.4 アンカー設置工歩掛 (10本当り) 表2.4 アンカー設置工歩掛 (10本当り) 数量 数量 名 称 名 称 通 作 業 員 通 作 業 員 0.3 0.3 (注) アンカーは打込式とし、アンカーピン長さは1m以内とする。 (注) アンカーは打込式とし、アンカーピン長さは1m以内とする。 2-7 敷砂利及び吸出し防止材 2-7 敷砂利及び吸出し防止材 2-7-1 敷砂利 2-7-1 敷砂利 敷砂利が必要な場合の歩掛は、「プレキャスト法枠工」による。 敷砂利が必要な場合の歩掛は、「プレキャスト法枠工」による。 II -2-①-15 ① 231 **I** −2−①−15 ① 231

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

新	
	_
(3) 植生土のう製作100歳当り単価表 コード番号 S1250	(8) 植生土のう製作100歳当り平編表
II -2-①-19 ① 235	II −2−①−19 ① 235
	コード番号 S1250 金 条

旧 第Ⅱ編第2章 ⑤基礎工(鋼管矢板基礎工) ⑤-1打撃工法 4-1-3 諸雑費率 4-1-3 諸雑費率 $\Pi = 3 = (5) = 5$ 表4.5 諸雜費率 (%) 表4.5 諸雜費率 (%) (1622)単 杭 単 杭 継 杭 継 杭 雑 23 31 雑 23 31 (注) 溶接棒 (ワイヤ), 足場材の費用, 電気溶接機損料, 電力に関する経費等の費 (注) 溶接棒 (ワイヤ), 足場材の費用, 電気溶接機損料, 電力に関する経費等の費 用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 4-2 定規工(導杭・導枠) 4-2 定規工(導杭・導枠) 定規工の施工歩掛は、下記による。 定規工の施工歩掛は、下記による。 4-2-1 導杭 4-2-1 導杭 「第II編第5章②-1バイブロハンマエ」のバイブロハンマによるH形鋼の施工(打込み、引抜き)による。 「第II編第5章②-1バイブロハンマエ」のバイブロハンマによるH形鋼の施工(打込み、引抜き)による。 「第Ⅱ編第5章⑥仮設材設置撤去工」の切梁・腹起しによる。 「第Ⅱ編第5章⑥仮設材設置撤去工」の切梁・腹起しによる。 4-3 鋼管内掘削工 4-3 鋼管内掘削工 鋼管内の掘削の歩掛は、次表を標準とする。 鋼管内の掘削の歩掛は、次表を標準とする。 表4.6 鋼管内掘削工歩掛 (10m³当り) 表4.6 鋼管内掘削工歩掛 (10m³当り) 名 称 規 格 単位 数量 名 称 規 格 単位 数量 土木一般世話役 土木一般世話役 人 0.19 人 0.19 普 通 作 業 0.74 普 通 作 業 0.74 ハンマグラブ運転 ハンマグラブ運転 0.40 H 0.40 H 諸 雑 費 率 % 14 諸 雑 費 率 % 14 (注) 1. 管内掘削後のスライム処理を含む。 (注) 1. 管内掘削後のスライム処理を含む。 2. 諸雑費は、ハンマクラウン損料、工事用水中モータポンプ損料、電力に 2. 諸雑費は、ハンマクラウン損料、工事用水中モータポンプ損料、電力に 関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上 関する経費等の費用であり、 労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上 限として計上する。 限として計上する。 3. 日当りの施工量は、53m3を標準とする。 3. 日当りの施工量は、53m3を標準とする。 4-4 鋼管内コンクリート打設工 4-4 鋼管内コンクリート打設工 4-4-1 施丁歩掛 4-4-1 施工歩掛 鋼管内のコンクリート打設工の歩掛は、次表を標準とする。 鋼管内のコンクリート打設工の歩掛は、次表を標準とする。 表4.7 鋼管内コンクリート打設工歩掛 (10m³当り) 表4.7 鋼管内コンクリート打設工歩掛 (10m³当り) 規 格 数量 規 格 数量 名 称 単位 名 称 単位 土木一般世話役 0.08 土木一般世話役 0.09 特 殊 作 業 員 特 殊 作 業 員 0.22 0.20 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 0.270.30 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m3/h | コンクリートポンプ車運転 | トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h 0.09 日 日 0.08 (注) 日当りの施工量は、125m3を標準とする。 (注) 日当りの施工量は、113m3を標準とする。 4-4-2 鋼管内コンクリートの使用量 4-4-2 鋼管内コンクリートの使用量 鋼管内コンクリートの使用量は、次式による。 鋼管内コンクリートの使用量は、次式による。 使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 1 使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 1 K:ロス率 K:ロス率 表4.8 ロス率(K) 表4.8 ロス率(K) 率 2003 ① 622 II -3-⑤-5 ① 622 II -3-⑤-5

旧 第Ⅱ編第2章 ⑤基礎工(鋼管矢板基礎工) ⑤-1打撃工法 4-7-2 継手管内止水材の使用量 4-7-2 継手管内止水材の使用量 $\Pi - 3 - (5) - 7$ 継手管内止水材の使用量は、次式による。 継手管内止水材の使用量は、次式による。 (1)624使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 3 使用量 (m3) =設計数量× (1+K) ……式4. 3 K:ロス率 K:ロス率 表4.13 ロス率(K) 表4.13 ロス率(K) ス 率 +0.14 ス 率 +0.14 継手管内止水材の設計数量は、パイプ型 (P-P型) φ165.2mmの場合、2.5m3/100mを標準とする。 継手管内止水材の設計数量は、パイプ型 (P-P型) φ165.2mmの場合、2.5m3/100mを標準とする。 なお、これにより難い場合は、別途考慮する。 なお、これにより難い場合は、別途考慮する。 4-8 井筒内掘削工 4-8 井筒内掘削工 井筒内の水中掘削の歩掛は、次表を標準とする。 井筒内の水中掘削の歩掛は、次表を標準とする。 表4.14 井筒内掘削工歩掛 (10m³当り) 表4.14 井筒内掘削工歩掛 (10m³当り) 名 称 規 格 単位 数量 名 称 規 格 単位 数量 土 木 一 般 世 話 役 人 0.07 土木一般世話役 人 0.07 普 通 作 業 員 0.33 普 通 作 業 員 0.33 クラムシェル運転 油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m³ クラムシェル運転 油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平穏)0.8m³ 0.13 0,13 (注) 日当りの施工量は、143m3を標準とする。 (注) 日当りの施工量は、143m3を標準とする。 4-9 底面均し(敷砂)工 4-9 底面均し(敷砂) 工 水中における底面均し(敷砂)の歩掛は、次表を標準とする。 水中における底面均し(敷砂)の歩掛は、次表を標準とする。 表4.15 底面均し(敷砂)工歩掛 (10m³当り) 表4.15 底面均し(敷砂)工歩掛 (10m³当り) 名 称 規格 単位 数量 名 称 規 格 単位 数量 土 木 一 般 世 話 役 人 0.7 土 木 一 般 世 話 役 人 0.7 水 " 1.2 水 11 1.2 普 通 作 業 員 通 作 業 員 1.3 1.3 クラムシェル運転 油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m³ クラムシェル運転 油圧ロープ式・クローラ型 0.2 Н 0.2 雑 費 雑 費 諸 (注) 1. 井筒の内壁清掃作業を含む。 (注) 1. 井筒の内壁清掃作業を含む。 2. 諸雑費は、潜水士の設備用具等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 2. 諸雑費は、潜水士の設備用具等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 3. 日当りの施工量は、19m3を標準とする。 3. 日当りの施工量は、19m3を標準とする。 4-10 底盤コンクリート打設工 4-10 底盤コンクリート打設工 4-10-1 施工歩掛 4-10-1 施工歩掛 底盤コンクリートの水中打設の歩掛は、次表を標準とする。 底盤コンクリートの水中打設の歩掛は、次表を標準とする。 (10m³当り) 表4.16 底盤コンクリート打設工歩掛 (10m³当り) 表4.16 底盤コンクリート打設工歩掛 単位 単位 数量 名 称 規格 数量 名 称 規 格 土 木 一 般 世 話 役 土 木 一 般 世 話 役 0.09 人 0.08 J. 特殊 作業 員 特殊 作業 員 0.20 11 0.18 11 普 通 作 業 員 通 作 業 員 0.30 0.27 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110㎡~h コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h 0.08 0.09 (注) 1. 潜水士による作業 (水中コンクリートの均し,確認等) が必要な場合は、別途計上する。 2. 日当りの施工量は、125m³を標準とする。 (注) 1. 潜水士による作業 (水中コンクリートの均し, 確認等) が必要な場合は、別途計上する。 2. 日当りの施工量は、113m3を標準とする。 ① 624 ① 624 II -3-⑤-7 **I**I −3−⑤−7

ĺΗ 第Ⅱ編第2章 ⑤基礎工(鋼管矢板基礎工) ⑤-1打撃工法 4-10-2 底盤コンクリートの使用量 4-10-2 底盤コンクリートの使用量 $\Pi - 3 - (5) - 8$ 底盤コンクリートの使用量は、次式による。 底盤コンクリートの使用量は、次式による。 (1625)使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 4 使用量 (m3) =設計数量× (1+K) ……式4. 4 K:ロス率 K:ロス率 表4.17 ロス率(K) 表4.17 ロス率(K) 四区 +0.09率 4-11 井筒内支保設置・撤去工 4-11 井筒内支保設置・撤去工 井筒内の排水・注水を伴う支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。 井筒内の排水・注水を伴う支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。 表4.18 井筒内支保設置·撤去工歩掛 (10t当り) 表4.18 井筒内支保設置·撤去工歩掛 (10t当り) 名 称 規 格 単位 数量 名 称 単位 数量 土 木 一 般 世 話 役 2.6 土 木 一 般 世 話 役 人 2.6 人 ٤ 6, 5 ٤ 6.5 溶 接 溶 接 4.1 4.1 作 業 員 3.9 作 業 3.9 通 通 ク ロ ー ラ ク レ ー ン 選 転 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジプ型 50~55t吊 クローラクレーン運転 油圧駆動式ウインチ・フェーラクレーン 運転 ラチスシブ型 50~55t品 H 4.1 H 4.1 23 諸 23 諸 (注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は設置65%、撤去35%である。 (注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は設置65%、撤去35%である。 2. 井筒内の排水及び注水作業を含む。 2. 井筒内の排水及び注水作業を含む。 3. 支保工内に支柱を建込む場合は、別途計上する。 3. 支保工内に支柱を建込む場合は、別途計上する。 4. 諸雑費は、工事用水中モータボンプ損料、電気終接機損料、ガス切断機損料、電力に関する経費、機素、アセチレン、ホース等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 4. 諸雑費は、工事用水中モータボンブ損料、電気溶接機損料、ガス切断機損料、電力に関する経費、酸素、アセチレン、ホース等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 として計上する。 として計上する。 5. 日当りの施工量は、4 tを標準とする。 5. 日当りの施工量は、4 tを標準とする。 4-12 井筒内支保間詰コンクリート工 4-12 井筒内支保間詰コンクリート工 4-12-1 施工歩掛 4-12-1 施工歩掛 井筒内の支保間詰コンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 井筒内の支保間詰コンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 表4.19 井筒内支保間詰コンクリート打設工歩掛 (10m³当り) 表4.19 井筒内支保間詰コンクリート打設工歩掛 (10m³当り) 数量 名 称 規 格 単位 数量 名 称 規 格 単位 土 木 一 般 世 話 役 土 木 一 般 世 話 役 人 0.9 人 殊 作 業 員 殊 作 業 2.4 " 2.67 通 作 業 通 作 業 員 員 3.11 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h В 0.78 0.7 (注) 1. 底板等の設置撤去労務を含む。 (注) 1. 底板等の設置撤去労務を含む。 なお,底板等の材料費は,別途計上する。 2. 日当りの施工量は, llm³を標準とする。 なお、底板等の材料費は、別途計上する。 2. 日当りの施工量は、10m³を標準とする。 4-12-2 井筒内支保間詰コンクリートの使用量 4-12-2 井筒内支保間詰コンクリートの使用量 井筒内支保間詰コンクリートの使用量は、次式による。 井筒内支保間詰コンクリートの使用量は、次式による。 使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 5 使用量 (m³) =設計数量× (1+K) ……式4. 5 K:ロス率 K:ロス率 表4.20 ロス率(K) 表4.20 ロス率(K) ス 率 +0.04ス 率 +0.04II-3-⑤-8 ① 625 **I** −3−⑤−8 ① 625

旧 第Ⅱ編第4章 ①コンクリート工 5. 施 工 歩 掛 5. 施 工 歩 掛 $\Pi - 4 - (1) - 9$ 5-1 圧送管組立·撤去 5-1 圧送管組立・撤去 (1655)5-1-1 適用範囲 5-1-1 適用範囲 本歩掛は,表5.1に示す施工パッケージ以外で,コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合の, 本歩掛は,表5. 1に示す施工パッケージ以外で,コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合の, 超えた部分の圧送管延長分の組立・撤去に適用する。 超えた部分の圧送管延長分の組立・撤去に適用する。 表5.1 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ 表5.1 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ • 函渠(1) • 重力式擁壁 ・もたれ式擁壁 ・ 函渠 (1) · 重力式擁壁 ・もたれ式擁壁 ・コンクリート打設(深礎工) · 逆T型擁壁 · L型擁壁 ・コンクリート打設(深礎工) · 逆T型擁壁 L型糠壁 ・コンクリート ・コンクリート 5-1-2 圧送管組立・撤去歩掛 5-1-2 圧送管組立・撤去歩掛 コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合は、超えた部分の圧送管延長分について、次表の労 コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合は、超えた部分の圧送管延長分について、次表の労 務を、組立・撤去歩掛として計上する。 務を、組立・撤去歩掛として計上する。 なお、これにより難い場合は別途考慮する。 なお、これにより難い場合は別途考慮する。 表5.2 圧送管組立·撤去歩掛 (10m当り) 表5.2 圧送管組立・撤去歩掛 (10m当り) 単 位 組立 撤去 単 位 撤去 普通作業員 0.26 0.20 普通作業員 0.26 0.20 (注) 圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。 (注) 圧送管の固定足場 (受枠) を必要とする場合は、別途計上する。 5-2 養生工 5-2 養生工 5-2-1 適用範囲 5-2-1 適用範囲 本歩掛は、表5. 3に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。 本歩掛は、表5. 3に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。 表5.3 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ 表5.3 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ ・ヒューム管 (B 形管) · 函渠 (1) ・現場打基礎コンクリート ・ヒューム管 (B 形管) · 函渠 (1) ・現場打基礎コンクリート · 重力式擁壁 天端コンクリート ·重力式擁壁 天端コンクリート · 小型擁壁 (B) · 小型擁壁 (B) ・もたれ式擁壁 · 逆T型擁壁 L型攤壁 ・もたれ式擁壁 · 逆T型擁壁 L型攤壁 ・コンクリート打設(深礎工) ・コンクリート ・コンクリート打設(深礎工) ・コンクリート 5-2-2 一般養生工 5-2-2 一般養生工 一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。 一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。 表5.4 養生歩掛 (10m3 当り) 表5.4 養生歩掛 (10m3 当り) 小型構造物 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物 名 称 名 称 普通作業員 0.64 普通作業員 0.18 0.71 0.31 0.16 0.34 諸 雑 費 率 16 諸 雑 費 率 12 16 % 25 % 25 (注) 諸雑費は、シート、養生マット、角材、パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費 (注) 諸雑費は、シート、養生マット、角材、パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費 等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 5-3 養生工(特殊養生) 5-3 養生工 (特殊養生) 5-3-1 適用範囲 5-3-1 適用範囲 本歩掛は、表5.5に示す施工パッケージ以外の河川、海岸、道路工事等における寒中コンクリートの養生 本歩掛は、表5.5に示す施工パッケージ以外の河川、海岸、道路工事等における寒中コンクリートの養生 に適用する。なお,養生方法は給熱養生を標準とし,異形プロック製作における養生は,適用しない。 に適用する。なお,養生方法は給熱養生を標準とし,異形プロック製作における養生は,適用しない。 表5.5 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ 表5.5 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ ・ヒューム管 (B 形管) ・函渠 (1) ・現場打基礎コンクリート ・ヒューム管 (B 形管) ・函渠 (1) ・現場打基礎コンクリート 天端コンクリート · 小型擴靡 (B) 重力式機壁 天端コンクリート · 小型擴靡 (B) 重力式機壁 ・もたれ式擁壁 逆T型擁壁 ・もたれ式擁壁 · 逆 T 型擁壁 I.型擁壁 I. 型擁壁 ・コンクリート打設 (深礎工) ・コンクリート打設 (深礎工) ・コンクリート ・コンクリート II-4-①-9 II-4-①-9 ① 655 ① 655

之//立 7		
	新	III
然 取饲 <i>粉</i> 4 		
第Ⅱ編第4章		
①コンクリートエ		
II -4-①-10	5-3-2 特殊養生工	5-3-2 特殊養生工
(1656)	5-3-2-1 特殊養生工 (練炭養生)	5-3-2-1 特殊養生工 (練炭養生)
(4,000)	練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。	練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。
	表5.6 特殊養生歩掛(練炭養生) (10m3 当り)	表5.6 特殊養生歩掛(練炭養生) (10m3 当り)
	名 称 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物	名 称 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物
	普通作業員 人 0.88 0.54 1.6	普通作業員 人 0.98 0.6 1.8
	諸 雑 費 率 % 25 25 32	諸 雑 費 率 % 25 25 32
	(注) 1. 諸雄費は、練炭、コンロ、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。	(注) 1. 諸雑費は、練炭、コンロ、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
	2. 養生のための足場は、 原則として計上しないものとする。	2. 養生のための足場は、原則として計上しないものとする。
	5-3-2-2 特殊養生工 (ジェットヒータ養生)	5-3-2-2 特殊養生工 (ジェットヒータ養生)
	(1)機種の選定機は、根本と無効しせる	(1) 機種の選定 機能・担党は、大きな種類にする
	機械・規格は,次表を標準とする。	機械・規格は、次表を標準とする。
	表5.7 機種の選定	表5.7 機種の選定
	機械名 規格	機械名 規格
	業務用可搬型ヒータ [油だき・熱風・直火型]	業務用可搬型ヒータ [油だき・熱風・直火型]
	熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) [ジェットヒータ] 油種 灯油	熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) [ジェットヒータ] 油種 灯油
	(2) 施工歩掛	(2) 施工歩掛
	ジェットヒータによる特殊後生歩掛は、次表を標準とする。	ジェットヒータによる特殊養生歩掛は、次表を標準とする。
	表5.8 特殊養生歩掛(ジェットヒータ養生) (10m3 当り)	表5.8 特殊養生歩掛(ジェットヒータ養生) (10m3 当り)
	名 称 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物	名 称 単 位 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物
	普通作業員人 0.74 0.43 2.4	普通作業員人 0.82 0.48 2.67
	業務用可搬型ヒータ 日 [ジェットヒータ] 運転 日 1.6 1.8 7,8	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転 日 1.8 2.0 8.7
	諸 雑 費 率 % 13 28 33	諸 雑 費 率 % 13 28 33
	(注) 1. ジェットヒータは、賃料とする。	(注) 1. ジェットヒータは、賃料とする。
	2. 諸雑費は、電力に関する経費、シート、養生マット、 角材、パイプ等の費用であり、労務費の合	2. 諸雑費は、電力に関する経費、シート、養生マット、 角材、パイプ等の費用であり、労務費の合
	計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 3. 養生のための足場は、原則として計上しないものとする。	計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 3. 養生のための足場は、原則として計上しないものとする。
	(3)運転時間	(3)運転時間
	ジェットヒータによる特殊養生に要する施工機被運転日当り運転時間は、次表を標準とする。	ジェットヒータによる特殊養生に要する施工機械運転日当り運転時間は、次表を標準とする。
	表5.9 施工機械運転日当り運転時間 (h/日)	表5.9 施工機械運転日当り運転時間 (h/日)
	名 称 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物	名 称 無筋構造物 鉄筋構造物 小型構造物
	業務用可搬型ヒータ 18.5 15.2 20.1	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転 18.5 15.2 20.1
	[ジェットヒータ] 運転 (注) ジェットヒータの運転時間当り燃料消費量は, 灯油 3.60/ h とする。	(注) ジェットヒータの運転時間当り燃料消費量は、灯油 3.60/hとする。
	⊕ 656	① 656 II -4-①-10

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

上小工事/示牛惧异至中	(令和3年4月1日一部以上 <i>)</i> 新旧对照表	
頁	新	
第Ⅱ編第4章 ①コンクリートエ		
II -4-①-11 (①657)	6. 単 価 表 (1) 圧送管組立・撤去費 10m3 当り単価表 コード番号 S 1911 名 称 規 格 単位 数量 摘 要 普 通 作 業 員 人 0.46 ×L/B 表 5.2 居 雑 費 式 1 計 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。 2. Bは、コンクリートの標準日打設とする。	6. 単 価 表 (1) 圧送管組立・撤去費 10m3 当り単価表 コード番号 S 1911 名 称 規 格 単位 数量 摘 要 普 通 作 業 員 人 0.46 ×L/B 表 5.2 賭 雑 費 式 1 計 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。 2. Bは、コンクリートの標準目打設とする。
	3. 設計日打設量が 10m3 以上 100m3 未満の場合は, 標準日打設量を 69m3 とする。 4. 設計日打設量が 100m3 以上 500m3 未満の場合は, 標準日打設量を 280m3 とする。	3. 設計日打設量が 10m3 以上 100m3 未満の場合は, 標準日打設量を 62m3 とする。 4. 設計日打設量が 100m3 以上 500m3 未満の場合は, 標準日打設量を 252m3 とする。
	(2) 養生工 (一般養生) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5 名 称 規 格 単位 数量 摘 要	(2) 養生工 (一般養生) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5 名 称 規 格 単位 数量 摘 要
	普通作業員 人 表5.4 諸雄費 式 1 " 計	普通作業員 人 表5.4 諸雄費 式 1 " 計
	(3) 養生工 (特殊養生・練炭) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5	(3) 養生工 (特殊養生・練炭) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5
	名 称 規 格 単位 数量 摘 要 普 通 作 業 具 人 表5.6 財 雑 費 式 1 "	名 称 規 格 単位 数量 摘 要 普 通 作 業 具 人 表5.6 財 雑 費 式 1 "
	計 (4) 養生工 (特殊養生・ジェットヒータ) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5	計 (4)養生工 (特殊養生・ジェットヒータ) 10m3 当り単価表 コード番号 S 1 9 2 5
	名 称 規格 単位 数量 摘 要	名 称 規格 単位 数量 摘 要
	普通作業員 人 表5.8	普通作業員 人 表5.8
	業務用可搬型ヒータ 直火型] 「ジェットヒータ」運転 熱出力 126MJ/h (30, 100kca1/h) 油種 灯油	業務用可搬型ヒータ 直火型] 製出力126MJ/h 円 第出力126MJ/h 円 (30, 100kcal/h) 油種 灯油
	諸 雑 費 式 1 " 計 1 1 "	諸 雑 費 式 1 " 計
	(5) 機能が発生性が重要 コード番号 \$8581	(E) 機能を関係に終めた。 コード番号 S 8 5 8 1
	(5)機械運転単価表 機 械 名	(5)機械運転単価表 機 域 名 規 格 適用単価表 指 定 事 項
	[油だき・熱風・直火型] 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 熱出力126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 機-16 燃料消費量→表5.9 機械賃料数量→1.20	[油だき・熱風・直火型] 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 熱出力126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油 機−16 燃料消費量→表5.9 機械賃料数量→1.20
	II−4−①−11 ① 657	II-4-①-11 ① 657

旧 第Ⅱ編第4章 ④張りコンクリートエ 4-3-2 縦排水溝・小段排水溝 4-3-2 縦排水溝・小段排水溝 II - 4 - 4 - 5張りコンクリート(縦排水溝・小段排水溝)にかかるコンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 張りコンクリート(縦排水溝・小段排水溝)にかかるコンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 (1669)表4.4 コンクリート打設歩掛(縦排水溝・小段排水溝) 表4.4 コンクリート打設歩掛(縦排水溝・小段排水溝) (100㎡当り) 縦排水溝 小段排水溝 縦排水溝 小段排水溝 名 称 単位 称 単位 ラフテレーン パックホウ ラフテレーン ハナックホウ ラフテレーン ハナックホウ ラフテレーン ハ・ックホウ クレーン クレーン 2.0 3.1 土木一般世話役 土木一般世話役 4.3 特 殊 作 業 員 特 殊 作 業 員 5.6 2.3 2.1 8.8 (8.0) 3.8 (3.4) 5.8 5. 4 (5. 1) 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 バックホウ (クローラ型) 標準型・超低騒音型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(2011年規制) 山積0.8㎡(平積0.6㎡)吊能力2.9t バックホウ (クローラ型) 標準型・超低騒音型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(2011年規制) 山積0.8㎡(平積0.6㎡)吊能力2.9t 13.3 18.3 14.8 h 16.5 h ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・ ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・ 日 1.5 日 2.1 1.7 転 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊り 転 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊り % % (0.7)(0.3)(8.0) (0.7)(0.3) (0.8) (0.3)(注) 1. 目地材設置を行わない場合は、()内の数値を計上する。 2. 上表は、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助労務、コンクリートの表面仕上 (注) 1. 目地材設置を行わない場合は、() 内の数値を計上する。
2. 上表は、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助労務、コンクリートの表面仕上 上表は、コンクリートハケットへのコンクリート積込及い玉は日子来すて11月10個以上11日のカカウ、インファーマンスは日上上作業に必要な労務を含む。
 諸維費は、コンクリートバケット(ホッパ)の損料,目地材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 上表は、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び主掛作業等を行う機械付補切方務、コンクリートの表面仕上作業に必要な労務を含む。
 請練費は、コンクリートバケット(ホッバ)の損料、目地材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 ラフテレーンクレーンは、貸料とする。 4-3-3 防草コンクリート 4-3-3 防草コンクリート 張りコンクリート (防草コンクリート) にかかるコンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 張りコンクリート (防草コンクリート) にかかるコンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。 (100㎡当り) 表4.5 コンクリート打設歩掛(防草コンクリート) (100㎡当り) 表4.5 コンクリート打設歩掛(防草コンクリート) 防草コンクリート 防草コンクリート 単位 単位 名 称 規 名 称 規 バックホウ 人力打設 バックホウ 人力打設 土 木 一 般 世 話 役 特 殊 作 業 員 土 木 一 般 世 話 役 特 殊 作 業 員 0.60 0.67 1.1 3.5 (3.2) 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 標準型・クレーン機能付き 標準型・クレーン機能付き バックホウ (クローラ型) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 運 転 山積0.28㎡ (平積0.2㎡) 吊龍力1.7t パックホウ(クローラ型) 排出ガス対策型(第3水基準値) 転 山崎の 28㎡ (正縁の 2㎡) 足能力 H B 0.89 0.99 山積0.28㎡ (平積0.2㎡) 吊能力1.7t (0.7)(0.2)(0.7)(0.2)(注) 1. 目地材設置を行わない場合は、() 内の数値を計上する。
2. バックホウ打設には、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助労務を含む。
3. 上表は、コンクリートの表面仕上作業に必要な労務を含む。
4. バックホウ打設の精雑費は、コンクリートバケット(ホッバ)の損料、目地材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
5. 人力打設には、シュートの架設、移設等の作業を含む。
6. 人力打設の結雑費は、シュートの損料、目地材の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
7. バックホウは、賃料とする。 (注) 1. 目地材設置を行わない場合は、() 内の数値を計上する。 2. バックホウ打設には、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助労務 パックホウ打設には、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助労務を含む。
 上表は、コンクリートの表面仕上作業に必要な労務を含む。
 パックホウ打設の諸雑費は、コンクリートバケット(ホッパ)の損料、目地材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 人力打設には、シュートの架散、移設等の作業を含む。
 人力打設の諸雑費は、シュートの損料、目地材の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 パックホウは、賃料とする。 II-4-@-5 ① 669 **I** −4−**④**−5 ① 669

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

	(令和3年4月1日一部)	<u>久</u>			
頁		新		旧	
第Ⅱ編第4章 ④張りコンクリートエ					
II -4-4-6 (1)670)	土木一般世音通作	表4.6 一般養生歩掛 (100㎡当り) 称 規格 単位 縦排水溝 が満コンクリート 世話役 人 0.21 0.09	名 土 木 一 普 通	#は、次表を標準とする。 表4.6 一般養生歩掛	
	① 670	II-4-@-6	① 670	Ⅱ-4-④-6	

ĺΗ 第Ⅲ編第1章 ③消波工 4-4-3 コンクリートエ 4-4-3 コンクリート工 III - 1 - (3) - 5(1) コンクリート投入打設方法 (1) コンクリート投入打設方法 (1875)コンクリート投入打設方法は、クレーン打設を標準とする。 コンクリート投入打設方法は、クレーン打設を標準とする。 (2) コンクリート投入打設歩掛 (2) コンクリート投入打設歩掛 コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。 コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。 表4.6 コンクリート投入打設歩掛 表4.6 コンクリート投入打設歩掛 (100m³当り) (100m³当り) ブロック実質量 ブロック実質量 単位 単位 名 称 担 格 11.0tを超え 25.0t以下 25.0tを超え 50.0t以下 名 称 規 格 11.0tを超え 25.0t以下 25.0tを超え 50.0t以下 土木一般世話役 土木一般世話役 0.78 0.9 0.7 1.0 特殊作業員 特殊作業員 1.67 11 1.8 1.5 11 2.0 普通作業員 2.1 普通作業員 2.78 2.33 2.5 ク ロ ー ラ 油圧駆動ウインチ・ラチスジブ型 クレーン運転 100t吊 ク ロ ー ラ 油圧駆動ウインチ・ラチスジブ型 クレーン運転 100t吊 B 日 1.33 0.89 1.2 0.8 (注) 現場条件等で上表により難い場合は、別途考慮する。 (注) 現場条件等で上表により難い場合は、別途考慮する。 (3)養生工 (3) 養生工 養生工の歩掛は、次表を標準とする。なお、給熱養生の場合は別途考慮する。 養生工の歩掛は、次表を標準とする。なお、給熱養生の場合は別途考慮する。 表4.7 一般養生工歩掛 表4.7 一般養生工歩掛 ブロック実質量 ブロック実質量 単位 11.0tを超え25.0t以下 25.0tを超え50.0t以下 名 称 単位 名 称 11.0tを超え25.0t以下 25.0tを超え50.0t以下 普通作業員 人 普通作業員 人 1.0 1. 11 0.67 (注) 本歩掛では、むしろ、シート掛け、養生剤程度のものを使用する。 (注) 本歩掛では、むしろ、シート掛け、養生剤程度のものを使用する。 (4) 材料の使用量 (4) 材料の使用量 材料の使用量は、次式による。 材料の使用量は、次式による。 使用量 (m3) =設計量×(1+K) 使用量 (m³) =設計量×(1+K) K: ロス率 K: 口入率 表4.8 ロス率 表4.8 ロス率 材料 ロス率 材 料 ロス率 コンクリート +0.01コンクリー +0.01(注) 現場練りコンクリートを使用する場合も、上表のロス率を用いてもよい。 (注) 現場練りコンクリートを使用する場合も、上表のロス率を用いてもよい。 4-4-4 諸雑費 4-4-4 諸雄費 諸雑費は、型枠はく離剤、インパクトレンチ損料、コンクリートバケット、バイブレータ、 諸雑費は、型枠はく離剤、インパクトレンチ損料、コンクリートバケット、バイブレータ、 養生シート及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を 養生シート及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を 上限として計上する。 上限として計上する。 表4.9 諸雑費率 表4.9 諸雑費率 諸雜費率 3 諸雜費率 3 (注) 一般養生を行わない場合も適用出来る。 (注) 一般養生を行わない場合も適用出来る。 4-5 横取り 4-5 横取り 4-5-1 横取り歩掛 4-5-1 横取り歩掛 (1) 日当り施工量 (Qc1) (1) 日当り施工量 (Qc1) ブロックの横取りの作業に関する日当り施工量は、次表を標準とする。 ブロックの横取りの作業に関する日当り施工量は、次表を標準とする。 表4. 10 日当り施工歩掛量(Qct) 表4.10 日当り施工歩掛量(Qct) (個/日) ブロック実質量 11.0tを超え25.0t以下 25.0tを超え50.0t以下 ブロック実質量 11.0tを超え25.0t以下 25.0tを超え50.0t以下 横取り 横取り 39 **II**-1-③-5 **I**I-1-3-5 ① 875 ① 875 十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第Ⅲ編第3章 ②コンクリートエ ②-1コンクリートエ 7. 砂防コンクリート打設歩掛 7. 砂防コンクリート打設歩掛 $\Pi - 3 - (2) - 3$ 7-1 一般部コンクリート打設歩掛 7-1 一般部コンクリート打設歩掛 (1)1022一般部コンクリート打設にかかる施工歩掛は、次表を標準とする。 一般部コンクリート打設にかかる施工歩掛は、次表を標準とする。 表7.1 一般部コンクリート打設歩掛 (100 ㎡当り) 表7.1 一般部コンクリート打設歩掛 (100 ㎡当り) 1日当り打設量 (㎡/日) 1日当り打設量 (㎡/日) 単 位 単 位 10以上 50 以上 10以上 50 以上 50 未満 140 未満 50 未満 140 未満 1.44 (1.22) 土木一般世話役 人 1.8(1.6)1.3(1.1)土木一般世話役 人 2.00 (1.78) 特 殊 作 業 員 11 4.6(4.4)3.0 (2.8) 特殊作業員 11 5.11 (4.89) 3.33 (3.11) 3.89 (3.56) 普 通 作 業 員 5.4 (5.1) 3.5(3.2)普 通 作 業 員 6,00 (5,67) ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 ラフテレーンクレーン 型 (第3次基準値)・低騒音型・ 25t吊 型(第3次基準値)・低騒音型・ 日 1.7 (1.7) 1.1 (1.1) 日 1.89 (1.89) 1.22 (1.22) 転 25 t 吊 運 運 チッピング 人力施工 チッピング 人力施工 17 (18) 26 (29) 17 (18) 26 (29) % % 雑工種率 機械施工 11 20 (21) 30 (33) 雑工種率 機械施工 20 (21) 30 (33) 15 岩盤清掃 9 (10) 14 (15) 岩盤清掃 9 (10) 14 (15) 11 諸 雑 費 率 16 (12) 25 (19) 諸 雑 費 率 11 16 (12) 25 (19) 35 (注) 1. 本歩掛は、コンクリート打設・養生、打継面・岩着面のモルタル敷均し、打継面清掃、チッピン (注) 1. 本歩掛は、コンクリート打設・養生、打継面・岩着面のモルタル敷均し、打継面清掃、チッピン グ・岩盤清掃等を含む。なお、雑工種は必要に応じて計上するものとし労務費の合計額に上表の率 グ・岩盤清掃等を含む。なお、雑工種は必要に応じて計上するものとし労務費の合計額に上表の率 を乗じた金額を上限として計上する。 を乗じた金額を上限として計上する。 [チッピング] [チッピング] ①人力施工:岩盤面や打継面でチッピングが必要な場合に計上。 ①人力施工:岩盤面や打継面でチッピングが必要な場合に計上。 ・チッピング労務、空気圧縮機賃料、さく岩機損料及び運転経費等の経費である。 ・チッピング労務、空気圧縮機賃料、さく岩機損料及び運転経費等の経費である。 ②機械施工: 既設堰堤への腹付け施工で, 既設堰堤等へのチッピングが必要な場合に計上。 ②機械施工: 既設堰堤への腹付け施工で, 既設堰堤等へのチッピングが必要な場合に計上。 ・チッピング労務、油圧式トンネル切削機(ベースマシン含む)損料及び運転経費等の費用で ・チッピング労務,油圧式トンネル切削機 (ベースマシン含む) 損料及び運転経費等の費用で ある。 ある。 [岩盤清掃] [岩盤清掃] 岩盤清掃労務、高圧洗浄機損料、工事用水中モータポンプ賃料、電力に関する経費等の費用であ 岩盤清掃労務,高圧洗浄機損料,工事用水中モータポンプ賃料,電力に関する経費等の費用であ 2. 特殊養生を必要とする場合は () 内の数値を計上し、特殊養生 (練炭) に要する費用は「第Ⅲ 2. 特殊養生を必要とする場合は () 内の数値を計上し、特殊養生 (練炭) に要する費用は「第Ⅲ 編第3章④養生工(練炭)」により別途計上する。なお、ジェットヒータ養生を行う場合は、ジェ 編第3章④養生工(練炭)」により別途計上する。なお、ジェットヒータ養生を行う場合は、ジェ ットヒータ養生に要する費用を別途計上する。 ットヒータ養生に要する費用を別途計上する。 3. 諸雑費は、スコップ、養生マット、コンクリートバケット賃料、コンクリートバイブレータ賃 3. 諸雑費は、スコップ、養生マット、コンクリートバケット賃料、コンクリートバイブレータ賃 料,工事用水中モータポンプ賃料,高圧洗浄機損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務 料,工事用水中モータポンプ賃料,高圧洗浄機損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務 費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 4. コンクリートバケット容量は、1.0 ㎡を標準とし、これにより難い場合は、別途考慮する。 4. コンクリートバケット容量は、1.0 ㎡を標準とし、これにより難い場合は、別途考慮する。

5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

Ⅲ-3-②-3

① 1022

5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

Ⅲ-3-②-3

① 1022

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 旧 第Ⅲ編第3章 ②コンクリートエ ②-1コンクリートエ 7-2 堤冠コンクリート打設歩掛 7-2 堤冠コンクリート打設歩掛 $\Pi - 3 - (2) - 4$ 堤冠コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。 堤冠コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。 (1)1023表7 2 提記コンクリート打設歩掛 表7.2 堤冠コンクリート打設歩掛 (10 ㎡当り) 1プロック当り打設量(㎡/ブロック) 称 グラノリシック 富配合 20 未満 30 未満 土木一般世話役 人 0.68 (0.60) 0.38 (0.30) 特殊 作業員 2.9 (2.7) 1.5 (1.3) 普通作業員 1.3 (1.1) 0.68 (0.50) 油圧伸縮ジプ型・排出ガス ラフテレーンクレーン 対策型 (第3次基準値)・ 0.24 (0.24) 0.24 (0.24) 運 転 低騒音型·25t吊 諸 雑 費 率 22 (12) % 12 (6) (注) 1. 本歩掛は、コンクリート打設・養生等を含む。 (注) 1. 本歩掛は、コンクリート打設・養生等を含む。 2. 特殊養生を必要とする場合は () 内の数値を計上し, 特殊養生 (練炭) に要する費用は「第Ⅲ 編第3章④養生工 (練炭) 」により別途計上する。なお、ジェットヒータ養生を行う場合は、ジェ ットヒータ養生に要する費用を別途計上する。 ットヒータ養生に要する費用を別途計上する。 3. 諸雑費は, スコップ, 養生マット, コンクリートバケット賃料, コンクリートバイブレータ賃料, 工事用水中モータポンプ賃料、高圧洗浄機損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合 計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 4. コンクリートバケット容量は、1.0 ㎡ を標準とし、これにより難い場合は、別途考慮する。 4. コンクリートバケット容量は、1.0㎡ を標準とし、これにより難い場合は、別途考慮する。 5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 8. 止水板設置 8. 止水板設置 8-1 止水板(塩化ビニル製止水板・ゴム製止水板)設置歩掛 8-1 止水板(塩化ビニル製止水板・ゴム製止水板)設置歩掛 10m 当りの止水板設置歩掛は、次表を標準とする。 10m 当りの止水板設置歩掛は、次表を標準とする。 主 1 11 4 七 11 男 上 41

表8.1 止水板設置歩掛

(10m当り) 名 称 単位 数 量 土木一般世話役 0.3 普 通 作 業 員 0.8

8-2 止水板使用数量

止水板の使用数量は、次式による。

使用数量 (m) = 設計数量 (m) × (1+K) · · · 式 8.1

K:ロス率

表8.2 ロス率(K)

	240
材料名	ロス率
止水板	+0.07

Ⅲ-3-②-4

(10 -34 h)

					ない。と をルコンノン	יע און ודיו	121	(10 m = 9)		
							1プロック当り打部	1ブロック当り打設量(㎡/ブロック)		
	名		称		規 格	単 位	グラノリシック 20 未満	富配合 30 未満		
土 木	: —	般	世話	役		人	0.76 (0.67)	0.42 (0.33)		
特	殊	作	業	員		11	3. 22 (3. 00)	1.67 (1.44)		
普	通	作	業	員		11	1.44 (1.22)	0.76 (0.56)		
ラフ: 運	テレー	ーン	クレー	-ン 転	油圧伸縮ジプ型・排出ガン 対策型(第3次基準値) 低騒音型・25 t 吊		0. 27 (0. 27)	0. 27 (0. 27)		
諸	雑		費	率		%	12 (6)	22 (12)		

- 2. 特殊養生を必要とする場合は () 内の数値を計上し, 特殊養生 (練炭) に要する費用は「第Ⅲ 編第3章④養生工 (練炭) 」により別途計上する。なお、ジェットヒータ養生を行う場合は、ジェ
- 3. 諸雑費は、スコップ、養生マット、コンクリートバケット賃料、コンクリートバイブレータ賃料、 工事用水中モータポンプ賃料、高圧洗浄機損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合

	矛	(10m当り)				
	名		称		単 位	数 量
土	木一	般	世話	役	人	0.3
普	通	作	業	員	"	0.8

8-2 止水板使用数量

止水板の使用数量は、次式による。

使用数量 (m) = 設計数量 (m) × (1+K) ··· 式 8.1

K:ロス率

表8 2 ロス率(K)

		20, 1-/11/
	材料名	ロス率
Г	止 水 板	+0.07

II-3-②-4 ① 1023 ① 1023

十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第Ⅲ編第3章 ②コンクリートエ ②-2コンクリートエ (ケーフ゛ルクレーン打設) ②-2 コンクリートエ(ケーブルクレーン打設) ②-2 コンクリートエ(ケーブルクレーン打設) III - 3 - (2) - 7(11026)本資料は、砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)のコンクリート工のうち、ケーブル 本資料は、砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)のコンクリート工のうち、ケーブル クレーン打設で施工する場合に適用する。 クレーン打設で施工する場合に適用する。 2. 機種の選定 2. 機種の選定 機械・規格は、次表を標準とする。 機械・規格は、次表を標準とする。 表2.1 機種の選定 表2.1 機種の選定 作業種別 機械名 単位 数量 摘要 作業種別 機械名 単位 数量 摘要 規 格 規 格 [両開ゴムシール付ローラゲート型] [両開ゴムシール付ローラゲート型] 台 コンクリートパケット 台 コンクリートパケット 容量1.0㎡ 容量1.0㎡ コンクリート投入 コンクリート投入 [両端固定・ディーゼル駆動式] [両端固定・ディーゼル駆動式] ケーブルクレーン 1 砂防工用 ケープルクレーン 1 砂防工用 11 11 定格荷重2.9t吊 定格荷重2.9 t 吊 [雨端固定・ディーゼル駆動式] [両端固定・ディーゼル駆動式] 1 砂防工用 1 砂防工用 型枠設置・撤去ケーブルクレーン 型枠設置・撤去ケーブルクレーン 定格荷重2.9 t 吊 定格荷重2.9 t 吊 (注) 現場条件により上表により難い場合は、現場条件に適合した機械・規格を別途考慮する。 (注) 現場条件により上表により難い場合は、現場条件に適合した機械・規格を別途考慮する。 3. 材料使用数量 コンクリートの使用数量は、次式による。 コンクリートの使用数量は、次式による。 使用数量 (m³) =設計数量 (m³) × (1+K) ······式3.1 使用数量 (m) =設計数量 (m) × (1+K) ······式 3.1 K:ロス率 K:ロス率 表3.1 ロス率(K) 表3.1 口ス率(K) 材料名 材料名 ロス密 ロス密 コンクリート コンクリート +0.04+0.044. コンクリート投入 4. コンクリート投入 コンクリート投入(打縫面・岩着面のモルタル敷均し含む)は、下記を標準とする。 コンクリート投入(打継面・岩着面のモルタル敷均し含む)は、下記を標準とする。 4-1 コンクリート投入日当り編成人員 4-1 コンクリート投入日当り編成人員 表4.1 日当り編成人員 (人/日) 表4.1 日当り編成人員 (人/日) 普通作業員 特殊作業員 普通作業員 特殊作業員 名 称 名 称 運転員 パケット 合 図 運転員 バケット 合 図 ケーブルクレーン ケーブルクレーン 1 4-2 ケーブルクレーンの作業能力 4-2 ケーブルクレーンの作業能力 運転1時間当り投入数量は、次式による。 運転1時間当り投入数量は,次式による。 $Q = \frac{60 \times q}{C \, m}$ $\mathbf{Q} = \frac{60 \times q}{\mathrm{Cm} \div 0.9}$

Q:運転1時間当り投入数量

(m/h)

q:コンクリートバケット容量

(m3) (min/回)

Cm:1サイクル当り所要時間

4-3 ケーブルクレーンのサイクルタイム サイクルタイムは、次式による。

 $Cm = \frac{2L}{V_1} + \frac{2(h_1 + h_2)}{V_2} + t$

Cm: 1サイクル当り所要時間

(min/回)

t:バケット積卸し、コンクリート放出時間

(min/回)

t = 3 min とする。

V1 (横行速度), V2 (巻上・巻下速度) は、次表を標準とする。

① 1026 **II** -3-②-7 Q:運転1時間当り投入数量

(m/h)

q:コンクリートバケット容量

(m3) Cm:1サイクル当り所要時間 (min/回)

4-3 ケーブルクレーンのサイクルタイム サイクルタイムは、次式による。

 $Cm = \frac{2L}{V_1} + \frac{2(h_1 + h_2)}{V_2} + t$

(min/回)

Cm:1サイクル当り所要時間 t:バケット積卸し、コンクリート放出時間

(min/回)

t = 3 min とする。

V1 (横行速度), V2 (巻上・巻下速度) は、次表を標準とする。

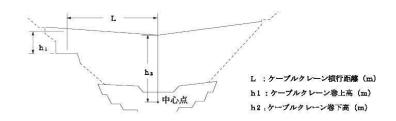
① 1026 **I**I-3-②-7 土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 第Ⅲ編第3章 ②コンクリートエ ②-2コンクリートエ (ケーブ・ルクレーン打設) **III** -3-(2)-8

(11027)

表4. 2 横行速度(V₁), 卷上·卷下速度(V₂) (m/min)

名 称	速度
横行速度(V ₁)	0. 52 L +56
巻上・巻下速度(V ₂)	2. 11 { (h1+h2) /2} +6. 67

(注) 現場条件により本式を適用し難い場合は、別途考慮する。



5. 型 枠 工

5-1 適用範囲

外部型枠、内部型枠に適用する。

5-2 型枠設置・撤去,ケレンはく離剤塗布施工歩掛 型枠 100 ㎡ 当り施工歩掛は、次表を標準とする。

第5 1 烈於設置・掛夫 ケレンはく離割参布施工歩掛 (100 ㎡坐り)

				- 2	(5. 1 空件設置・拡大、ソレンは、側	E11135 1110	2	(100 m =	"
	名		称		規 格	単 位	数 量	摘	要
土	木一	般	世	話 役		人	2.0	,	
型	わ	Í	<	I		Я	13. 0		
普	通	作	業	員		Л	13. 0		
ケ・	ーブル	クレ	ノーン	運転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	Ħ	2. 0	機械損料	
諸	雑		費	率		%	9		

(注) 諸雑費は、メタルフォーム、木製型枠、角パイプ、フォームタイ、座金、プラスチックコン、セパレ ータ, 丸鋼, はく離剤等の費用であり, 労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. コンクリート締固め、養生、打雑面清掃歩掛

10 ㎡当りの施工歩掛は、次表を標準とする。

*C 1	一、石川 上條用水	養生,打雞面清掃歩掛	(10 ㎡当り)
₹ 20. I	コンソリート権を迫め、	養生, 打羅咀洞席少實	(10 田ヨッ)

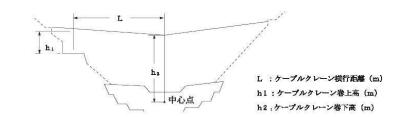
施工内容	コンクリー				
名称 単位	50未満	50 以上 100 未満	100以上	養 生	
土木一般世話役 人	0.14	0.10	0.10		
特殊作業員 "	0, 28	0, 21	0.14	32-13	
普通作業員 "	0.39	0, 32	0. 25	0, 13	
諸 雑 費 率 %	9	10	10	39 (2)	

- (注)1. コンクリート締固め、打離面清掃の諸雄費は、コンクリートパイプレータ損料、高圧洗浄機損料、高圧洗浄 機運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上
 - 2. 養生の諧雑費は、養生マット、工事用水中モータポンプ損料、工事用水中モータポンプ運転経費及び電力に 関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

II-3-②-8 ① 1027 表4.2 横行速度(V₁), 巻上·巻下速度(V₂) (m/min)

名 称	速度
横行速度(V ₁)	0. 52 L +56
巻上・巻下速度(V ₂)	2. 11 {(h1+h2) /2}+6. 67

(注) 現場条件により本式を適用し難い場合は、別途考慮する。



5. 型 枠 工

5-1 適用範囲

外部型枠、内部型枠に適用する。

5-2 型枠設置・撤去,ケレンはく離剤塗布施工歩掛 型枠 100 ㎡ 当り施工歩掛は、次表を標準とする。

¥5.	1	型松設置 樹夫	ケレンはく離剤塗布施工歩掛	(100 ㎡当り)
gu.		THE THERE IS NOT THE	/ レヘ (シノMENJJEE」/ NR → 25.11 J	(100 11 1)

					2.3	(3. 1 生件改画・版及, アレン16代	E11135 1110	2—2P 124	(тоо ш =	"
	名		称			規格	単 位	数 量	摘	要
土	木一	般	世	話	役		人	2.0		
型	わ	Í	く		I		Л	13. 0		
普	通	作	美	能	具		л	13. 0		
ケ・	ーブル	クレ	/—	ン道	転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	В	2. 0	機械損料	
諸	雑		費		率		%	9		

(注) 諸雑費は、メタルフォーム、木製型枠、角パイプ、フォームタイ、座金、プラスチックコン、セパレ ータ, 丸鋼, はく離剤等の費用であり, 労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. コンクリート締固め、養生、打雑面清掃歩掛

10 ㎡当りの施工歩掛は、次表を標準とする。

表6.1 コンクリート締固め、養生、打継面清掃歩掛

(10 品当り)

\	_			10.00	施工内容	コンクリー	ト締固め, 打継面視	情格(m//日)	
	名称	\	\	_	単位	50未満	50 以上 100 未満	100以上	養生
土	木一	般	世話	行役	人	0.16	0.11	0.11	<u></u>
特	殊	作	業	員	п	0. 31	0, 23	0.16	; — 1
普	通	作	業	員	п	0. 43	0, 36	0, 28	0, 14
諸	雑		費	率	%	9	10	10	39 (2)

- (注)1. コンクリート締固め、打継面清掃の諸雄費は、コンクリートバイブレータ損料、高圧洗浄機損料、高圧洗浄 機運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上
 - 2. 養生の諧雑費は、養生マット、工事用水中モータポンプ損料、工事用水中モータポンプ運転経費及び電力に 関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

II-3-②-8

① 1027

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 旧 第Ⅲ編第3章 ②コンクリートエ ②-2コンクリートエ (ケーブ ルクレーン打設) 3. 養生の() 内の数値は、自然水を利用する場合に適用する。自然水を利用する施設が必要な場合は、別途 3. 養生の() 内の数値は、自然水を利用する場合に適用する。自然水を利用する施設が必要な場合は、別途 $\Pi - 3 - (2) - 9$ (11028)4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生について 4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生について は別途考慮する。

7. 堤冠コンクリート締固め,養生歩掛

10 ㎡当りの締固め、養生歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 堤冠コンクリート締固め,養生歩掛

(10 ㎡当り)

	施工内容	1プロッ	ック当り締固め量(㎡/	ブロック)	#年 1 たり 1
名称	単位	鉄 材 3 未 満	グラノリシック 20 未 満	富配合 30未満	一 堤冠コンクリート 養生
土木一般世話	役人	3.3	0.6	0. 3	<u>=</u>
特殊作業	員 "	5.7	2.7	1. 3	_
普 通 作 業	員 "	12.0	1.1	0. 5	0. 9
諸 雑 費	率 %	4	10	10	39 (0.3)

- (注) 1. 堤冠コンクリート締固めの諸雑費は、コンクリートバイブレータ損料、運転経費及び電力に関する経費等の 費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 - 2. 堤冠コンクリート養生の諸雑費は、養生マット、散水養生で使用する工事用水中モータポンプ損料、工事用 水中モータボンブ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を 上限として計上する。
 - 3. 堤冠コンクリート養生の諸雑費率の () 内の数値は、自然水を利用する場合に適用する。自然水を利用す る施設が必要な場合は、別途計上する。
 - 4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお, ジェットヒータ養生について は別途考慮する。

8. 岩盤清掃歩掛

10 m²当りの岩盤清掃歩掛は、次表を標準とする。

					表	8. 1	岩盤清掃歩掛	(10 ㎡当り)
		名		称			単位	数 量
\pm	木	-	般	世	話	役	人	0. 1
普	ì	A	作	3	鞋	員	n n	0.5
諸		雑		費		率	%	33

(注) 諸雑費は、高圧洗浄機損料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機運転経費、工 事用水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9. チッピング歩掛

10 ㎡当りのチッピング歩掛は、次表を標準とする。

表9 1 チッピング歩掛

			ऋध.	1 79	レングが性	(10 m = 9)
	名	1	称		単位	数 量
土	木 一	般	世話	役	人	0.1
特	殊	作	業	員	"	0.3
普	通	作	業	員	11	0.3
諸	雑		費	率	%	23

- (注) 1. 継続工事の打継面処理には、適用しない。
 - 2. 諸雑費は,空気圧縮機損料,さく岩機損料,さく岩機運転経費及び電力に関する経 費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

は別途考慮する。

7. 堤冠コンクリート締固め、養生歩掛

10 ㎡当りの締固め、養生歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 堤冠コンクリート締固め,養生歩掛

(10 ㎡当り)

	施工内容	1ブロッ	HEL-1-1		
名称	単位	鉄 材 3 未 満	グラノリシック 20 未 満	富配合 30未 満	ー 堤冠コンクリート 養生
土木一般世話役	人	3.67	0.67	0.33	125
特殊作業員	"	6.33	3.00	1. 44	-
普 通 作 業 員	n	13.33	1.22	0. 56	1.00
諸 雑 費 率	%	4	10	10	39 (0.3)

- (注)1. 堤冠コンクリート締固めの蓄雑費は、コンクリートバイブレータ損料、運転経費及び電力に関する経費等の 費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 - 2. 堤冠コンクリート養生の諸雑費は、養生マット、散水養生で使用する工事用水中モータポンプ損料、工事用 水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を 上限として計上する。
 - 3. 堤冠コンクリート養生の諸雑費率の() 内の数値は、自然水を利用する場合に適用する。自然水を利用す る施設が必要な場合は、別途計上する。
 - 4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生について は別途考慮する。

8. 岩盤清掃歩掛

10 m 当りの岩盤清掃歩掛は、次表を標準とする。

				表	8. 1	岩盤清掃歩掛	(10 ㎡当り)
	名	18	称			単位	数 量
±	木 一	般	世	話	役	人	0.1
普	通	作	¥	Ě	員	H	0.5
諸	雑		費		率	%	33

(注) 諸雑費は、高圧洗浄機損料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機運転経費、工 事用水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9. チッピング歩掛

10 ㎡当りのチッピング歩掛は、次表を標準とする。

表9.1 チッピング歩掛

			-2	Xa. I	17	Lングのは、	(10 m = 9)
	名	9	称			単位	数 量
土	木 一	般	世	話:	役	人	0.1
特	殊	作	業	È ,	員	II	0.3
普	通	作	業	È .	員	"	0.3
諸	雑		費	9	A	%	23

- (注) 1. 継続工事の打継面処理には、適用しない。
 - 2. 諸雑費は、空気圧縮機損料、さく岩機損料、さく岩機運転経費及び電力に関する経 費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

① 1028 ① 1028 **II** -3-②-9 **II**-3-②-9

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

土不上事標準積昇基準	(令和3年4月1日一部改正) 新旧对照表	
頁	新	旧
_	(令相3年4月1日一部(改正) 対1日対照表 第7 (② 養生工(糖酸) 1. 適用 面 国 水料料は、砂が工事におけるを別のコンクリート養生(酸肉) に適用する。 2. 第 工 参 書 養生歩節は、次来を保障とする。	(日) 養生工(練炭) 1. 選用 範囲 木質科は、砂防工事における年期のコンクリート養生 (練炭) に適用する。 2. 第 工 歩 勢 発生歩終に、次決を団際とする。 22. 1 コングリート養生(砂防工)歩援 (10 ㎡当り) 名 称 泉 寿 塚 位 敷 最 演 変 一 第 項 年 第 章 年 第 章 年 第 章 年 第 章 章 年 第 章 章 年 第 章 章 章 章
	III−3−④−1 ① 1045	Ⅲ-3-④-1 ① 1045

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 旧 第IV編第1章 ⑤コンクリート舗装工 ⑤-1コンクリート舗装工 3-2 舗設歩掛 3-2 舗設歩掛 IV-1-(5)-2舗散歩掛は、次表を標準とする。 舗設歩掛は、次表を標準とする。 (252)表3.2 舗設歩掛 表3.2 舗設歩掛 (100m²当り) (100m²当り) 機械舗設 人力舗設 機械舗設 人力舗設 名 称 単位 名 称 単位 平均舗設厚 20cm未満 平均舗設厚 20cm未満 1車 2車 1車 2車 土木一般世話役 土木一般世話役 0.90 人 0.81 0.73 1.56 1.08 人 0.81 1.73 1.20 特殊作業員 2, 52 1.12 特殊作業員 11 2, 80 1.24 5, 39 3, 72 4.85 3, 35 普 通 作 業 員 5.66 2.98 9. 23 6.38 普 通 作 業 員 6. 29 3.31 10.26 7.09 官 0.66 0.73 左 官 コンクリートスプレッダ運転 1.46 コンクリートスプレッダ運転 1.42 1.31 1.58 1.58 1.46 コンクリートフィニッシャ運転 1.42 1.31 コンクリートフィニッシャ運転 コンクリートレベラ運転 1.42 1.31 コンクリートレベラ運転 1, 58 1.46 ラフテレーンクレーン運転 0.12 ラフテレーンクレーン運転 0.13 諸 雑 費 率 % 18 20 27 諸 雑 費 率 % 18 20 18 27 18 (注) 1. 機械舗設で1車とは1車線施工であり、2車とは2車線同時施工をいう。 (注) 1. 機械舗設で1車とは1車線施工であり、2車とは2車線同時施工をいう。 2.1車において、片側交互交通規制で施工する場合は、ラフテレーンクレーン運転及び蓄雑費を除いた、 2. 1 車において、片側交互交通規制で施工する場合は、ラフテレーンクレーン運転及び賭雑費を除いた、 上記歩掛の各々に1.1を乗じた数値を計上する。 上記歩掛の各々に1.1を乗じた数値を計上する。 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 4. 「2車」のコンクリートフィニッシャは、分解組立費、運搬費、運搬中の損料を別途計上する。 4.「2車」のコンクリートフィニッシャは、分解組立費、運搬費、運搬中の損料を別途計上する。 5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械(トラック 5. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する軌道・型枠、機械(トラック (クレーン装置付 ベーストラック4 t級・吊能力2.9 t), コンクリートカッタ等) の費用であり, 労務 (クレーン装置付 ベーストラック4t級・吊能力2.9t), コンクリートカッタ等) の費用であり, 労務 費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、 費,機械賃料,機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし, 人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 人力施工の場合は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 6. ターンテーブルが必要な場合は別途計上する。 6. ターンテーブルが必要な場合は別途計上する。 3-3 舗設用コンクリート使用量 3-3 舗設用コンクリート使用量 舗設用コンクリート使用量は、次式による。 舗設用コンクリート使用量は、次式による。 使用量 (m³)=設計面積 (m²)×平均舗設厚 (m)×(1+K)·····式3. 1 使用量 (m³)=設計面積 (m²)×平均舗設厚 (m)×(1+K)……式3. 1 K:ロス率 K:ロス率 表3.3 ロス率(K) 表3.3 ロス率(K) 平均舗設厚 25cm未満 25cm以上30cm以下 平均舗設厚 25cm以上30cm以下 25cm未満 ロス率 +0.03ロス率 +0.04+0.043-4 目地材料費

コンクリート舗装における横・縦目地の材料費については、別途計上すること。

② 52

3-4 目地材料費

コンクリート舗装における横・縦目地の材料費については、別途計上すること。

N-1-5-2

IV-1-9-2 ② 52

旧 第IV編第1章 ⑤コンクリート舗装工 ⑤-2連続鉄筋コンクリート舗装コ 3-2 舗設歩掛 3-2 舗設歩掛 IV-1-(5)-7舗設歩掛は, 次表を標準とする。 舗設歩掛は, 次表を標準とする。 (257)表3.2 舗設歩掛 (100m²当り) 表3.2 舗設歩掛 (100m²当り) 名 称 規 格 単位 数量 単位 数量 名 称 規 格 土 木 一 般 世 話 役 人 0.50 土 木 一 般 世 話 役 0.60 人 殊 作 業 員 0.40 特 殊 作 業 員 0.40 普 通 作 業 員 # 1.50 普 通 作 業 員 " 1.70 筋 I 1.20 I 1.30 筋 官 0.40 官 0.40 11 スリップフォームペーバ運転 最大舗装幅6m 最大舗装幅8m スリップフォームペーバ運転 最大舗装幅6m 最大舗装厚30cm H 0.12 H 0.13 費 % 36 費 % 36 (注) 1. 横目地設置の有無にかかわらず適用出来る。 (注) 1. 横目地設置の有無にかかわらず適用出来る。 2. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する端部型枠、トラック 2. 諸雑費は、養生に使用するマット、散水車等の費用及び舗設に使用する端部型枠、トラック ([クレーン装置付] ベーストラック4 t級・吊能力2.9 t), センサライン, 結束線等の費 ([クレーン装置付] ベーストラック4 t級・吊能力2.9 t), センサライン, 結束線等の費 用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上 用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上 する。 3. ターンテーブルが必要な場合は、別途計上すること。 3. ターンテーブルが必要な場合は、別途計上すること。 3-3 舗設用コンクリート使用量 3-3 舗設用コンクリート使用量 舗設用コンクリート使用量は, 次式による。 舗設用コンクリート使用量は, 次式による。 使用量 (m³)=設計面積 (m²)×舗設厚 (m)×(1+K)……式3. 1 使用量 (m³)=設計面積 (m²)×舖設厚 (m)×(1+K)……式3. 1 K:ロス率 K: ロス率 表3.3 口ス率(K) 表3.3 口ス率(K) 舖 設 厚 ロス率 舖 設 厚 ロス率 25cm未満 +0.0425cm未満 +0.0425cm以上30cm以下 +0.0325cm以上30cm以下 +0.033-4 目地材料費 3-4 目地材料費 **目地材料費は、「第Ⅳ編第1章⑤-1コンクリート舗装工」より**縦目地工・横目地工を別途計上すること。 **目地材料費は、「第Ⅳ編第1章⑤-1コンクリート舗装工」より**縦目地工・横目地工を別途計上すること。 3-5 スペーサー 3-5 スペーサー スペーサーについては、連続スペーサー(チェア)を使用するものとし、使用量は次表を標準とする。 スペーサーについては、連続スペーサー(チェア)を使用するものとし、使用量は次表を標準とする。 なお、単独スペーサーを用いる場合は別途考慮すること。 なお、単独スペーサーを用いる場合は別途考慮すること。 表3.4 スペーサー使用量 (100㎡当り) 表3.4 スペーサー使用量 (100㎡当り) 名 称 規 格 単位 摘 要 名 称 規格 単位 摘 要 スペーサー スペーサー 連続スペーサー 連続スペーサー (注) 規格については、舗装厚と現場状況に応じて高さ・長さを決めること。 (注) 規格については、舗装厚と現場状況に応じて高さ・長さを決めること。 IV - 1 - 5 - 7IV - 1 - 5 - 72 57 ② 57

旧 第Ⅳ編第1章 ⑤コンクリート舗装工 ⑤-2連続鉄筋コンクリート舗装コ 4. 目地切り・清掃歩掛 4. 目地切り・清掃歩掛 IV-1-(5)-8 目地切り・清掃は、現場・施工状況に応じて施工するものとする。 目地切り・清掃は、現場・施工状況に応じて施工するものとする。 (258)4-1 機種の選定 4-1 機種の選定 目地切り・清掃における機械・規格は、次表を標準とする。 目地切り・清掃における機械・規格は、次表を標準とする。 表4.1 機種の選定 表4.1 機種の選定 単位 数量 摘 要 規 格 機械名 機械名 規格 単位 数量 摘 要 コンクリートカッタ 乾式・切削深20cm級 コンクリートカッタ 乾式・切削深20㎝級 台 台 4-2 目地切り・清掃歩掛 4-2 目地切り・清掃歩掛 目地切り・清掃歩掛は、次表を標準とする。 目地切り・清掃歩掛は、次表を標準とする。 表4.2 目地切り・清掃歩掛 (100m当り) 表4.2 目地切り・清掃歩掛 (100m当り) 単位 名 称 単位 数量 名 称 数量 規 格 規 格 土 木 一 般 世 話 役 人 土木一般世話役 人 0.11 0.12 特 殊 作 業 員 特 殊 作 業 員 11 2.67 2.40 11 普 通 作 業 員 0.63 普 通 作 業 員 " 0.70 コンクリートカッタ運転 乾式・切削深20cm級 ブレード径44~56cm コンクリートカッタ運転 乾式・切削深20cm級 ブレード径44~56cm 0.30 日 0.33 雑 費 % 24 雑 費 % 24 (注) 1. 本歩掛は,必要に応じて適用する。 (注) 1. 本歩掛は、必要に応じて適用する。 2. 諸雑費は、コンクリートカッタのブレード、空気圧縮機質料及び運転経費 2. 諸雄費は、コンクリートカッタのプレード、空気圧縮機賃料及び運転経費 等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じ 等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じ た金額を上限として計上する。 た金額を上限として計上する。 ② 58 IV-1-9-8 ② 58 IV - 1 - 5 - 8

ĺΗ 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-1共同溝工(1) (構造物単位) 表3.3 共同溝工歩掛 表3.3 共同溝工歩掛 IV-4-(1)-3(コンクリート10m³当り) (コンクリート10m³当り) (2333)共同溝工 (1層1連 土被り:1.5<DH≤3.0) 適用歩掛 共同溝工 (1層1連 土被り:1.5<DH≤3.0) 適用歩掛 2 3 1 2 3 名 称 規格 名 称 規 格 土木一般 土木一般 Y 1.8 (1.8) 2.4 (2.1) 2.3 (2.0) 1.9 (1.9) 1.8 (1.8) 2.4 (2.1) 2.3 (2.0) 1.9 (1.9) X 特殊作業員 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 特殊作業員 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 普通作業員 普通作業員 4.5 (4.3) 4.3 (4.2) 6.0 (4.7) 5.7 (4.6) 4.5 (4.4) 4.4 (4.2) 6.1 (4.8) 5.8 (4.6) 型わくエ 7.2 (6.6) 6.7 (6.1) 7.8 (7.1) 7.4 (6.6) 型わくエ 7.2 (6.6) 6.7 (6.1) 7.8 (7.1) 7.4 (6.6) とびエ 0.3 (0.3) 0.3 (0.3) 1.3 (0.3) 1.2 (0.4) とびエ 11 0.3 (0.3) 0.3 (0.3) 1.3 (0.3) 1.2 (0.4) m³ m³ コンクリート 躯体部 コンクリート 躯体部 10.2 (10.2) 10.2 (10.2) トラック架装・ トラック架装・ 0.9(0.9)1.0 (1.0) ポンプ車運転 圧送能力 ポンプ車運転 圧送能力 90~110㎡/b 90~110m3/h 礎 砕 石 % 5.8 (6.1) 6.6 (7.0) 4.2 (5.1) 4.9 (5.8) 砕 石 % 5.8 (6.1) | 6.6 (7.0) | 4.2 (5.1) | 4.9 (5.8) 均しコンクリート 5.5 (5.6) 6. 0 (6. 1) 4. 0 (4. 6) 4. 4 (5. 1) 均しコンクリート 5.5 (5.6) 6. 0 (6. 1) 4. 0 (4. 6) 4. 4 (5. 1) 11 11 T. 6.6 (6.6) 4.3 (4.9) 4.8 (5.5) 種 歩床部コンクリート 5.9 (5.9) 6.6 (6.6) 4.3 (4.9) 種 歩床部コンクリート 5.9 (5.9) 4.8 (5.5) 11 1.5 (1.6) 1.2 (1.4) 目 地・止水板 1.5 (1.6) 1.5 (1.6) 1.2 (1.4) 1.1 (1.4) 目地・止水板 1.5 (1.6) 1.1 (1.4) 髂 282 11 7.1 (6.0) 6.7 (5.5) 9.9 (6.6) 9.3 (6.0) 諸 2845 11 7.1 (6.0) | 6.7 (5.5) | 9.9 (6.6) | 9.3 (6.0) (コンクリート10m3当り) (コンクリート10m3当り) 共同溝工(1層2連 土被り: 1.5<DH≤3.0) 適用歩掛 共同溝工 (1層2連 土被り: 3.0 < DH ≤ 5.0) 適用歩掛 共同溝工 (1層2連 土被り: 3.0 < DH ≤ 5.0) 適用歩掛 名 称 規 格 3 4 (5) 名 称 規 3 4 (5) **6** 2. 0≦B<2. 5 2. 5≦H<3. 0 士 木 一 般 士木一般 2.1 (1.9) 2.1 (1.9) 2.0 (1.8) 2.2 (2.0) 2.1 (1.9) 2.0 (1.8) 1.8 (1.7) 1.8 (1.6) 2.0 (1.8) 1.9 (1.7) 1.8 (1.7) 2.0 (1.9) 特殊作業員 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 特殊作業員 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 0.6 (0.6) 普通作業員 5. 3 (4. 5) 5. 1 (4. 4) 4.6 (3.9) 4. 5 (3. 8) 5. 0 (4. 2) 4.9 (4.2) 普通作業員 5. 4 (4. 5) 5. 2 (4. 4) 4.7 (3.9) 4.5 (3.9) 5.1 (4.3) 4.9 (4.2) 型わくエ 7.2 (6.4) | 6.7 (5.8) | 6.0 (5.4) | 5.7 (4.9) | 6.5 (5.7) | 6.2 (5.2) 型わくエ n 7.2 (6.4) 6.7 (5.8) 6.0 (5.4) 5.7 (4.9) 6.5 (5.7) 6.2 (5.2) とびエ n 0.9 (0.4) 0.9 (0.4) 0.8 (0.3) 0.8 (0.4) 0.9 (0.4) 1.0 (0.5) とびエ " 0.9 (0.4) 0.9 (0.4) 0.8 (0.3) 0.8 (0.4) 0.9 (0.4) 1.0 (0.5) コンクリート 躯体部 10.2 (10.2) コンクリート 躯体部 10.2 (10.2) コンクリート ブーム式 ポンプ車運転 圧送能力 90~110m³/b コンクリート プーム式 ポンプ車運転 圧送能力 0.9(0.9)1.0 (1.0) 石 % 5.1 (5.9) 5.7 (6.6) 4.3 (5.0) 4.9 (5.7) 3.6 (4.2) 4.1 (4.9) 礎 砕 石 % | 5.1 (5.9) | 5.7 (6.6) | 4.3 (5.0) | 4.9 (5.7) | 3.6 (4.2) | 4.1 (4.9) 礎砕 一 均 しコンクリート # 4.2 (4.7) 4.8 (5.3) 3.6 (4.0) 3.9 (4.4) 3.1 (3.5) 3.4 (3.9) 一 均 しコンクリート 〃 4.2 (4.7) 4.8 (5.3) 3.6 (4.0) 3.9 (4.4) 3.1 (3.5) 3.4 (3.9) 種 歩床部コンクリート π 5.0 (5.5) 5.3 (5.9) 4.1 (4.5) 4.4 (4.9) 3.5 (3.9) 3.9 (4.3) 種 歩床部コンクリート 〃 5.0 (5.5) 5.3 (5.9) 4.1 (4.5) 4.4 (4.9) 3.5 (3.9) 3.9 (4.3) 率 目 地 ・ 止 水 板 " 1.2 (1.4) 1.2 (1.4) 1.2 (1.4) 1.3 (1.5) 1.1 (1.3) 1.2 (1.4) 率 目 地 ・ 止 水 板 " 1.2 (1.4) 1.2 (1.4) 1.3 (1.5) 1.1 (1.3) 1.2 (1.4) 雑費率 "8.0 (5.9) 7.2 (5.4) 7.3 (4.8) 6.5 (4.4) 7.4 (5.2) 6.7 (4.9) 雑費率 "8.0 (5.9) 7.2 (5.4) 7.3 (4.8) 6.5 (4.4) 7.4 (5.2) 6.7 (4.9) (注) 1. 上表の労務歩掛は、一般型枠による製作設置・撤去、足場・支保設置・撤去、コンクリート打設・養生等 (注) 1. 上表の労務歩掛は、一般型枠による製作設置・撤去、足場・支保設置・撤去、コンクリート打設・養生等 を含むものである。 を含むものである。 なお、雑工種は必要に応じて計上する。 2. 上表の共同溝工歩掛は、内防水施工等により、撤去しない埋設型枠にて施工する場合は、適用出来な なお、雑工種は必要に応じて計上する。 2. 上表の共同溝工歩掛は、内防水施工等により、撤去しない埋設型枠にて施工する場合は、適用出来な 3. 設計数量は、躯体部本体コンクリートの数量とする。 3. 設計数量は、躯体部本体コンクリートの数量とする。 4. コンクリートのロス率を、2%として上表に含めてある。 5. 雑工種・諸雑費は、労務費とコンクリートポンプ車損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額 4. コンクリートのロス率を、2%として上表に含めてある。 5. 雑工種・諸雑費は、労務費とコンクリートポンプ車損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額 を上限として計上する。 を上限として計上する。 IV-4-①-3 ② 333 IV-4-10-3 ② 333 十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-1共同溝工(1) (構造物単位) なお、雑工種及び諸雑費に含まれる内容は、次表を標準とする。 なお、雑工種及び諸雑費に含まれる内容は、次表を標準とする。 IV-4-(1)-46. 養生は、散水養生、破膜養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は賭雑費率 6. 養生は、散水養生、被膜養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は賭雑費率 (2)334から1.0%減ずるものとし、養生費を「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上す から1.0%減ずるものとし、養生費を「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上す 3. 7. 冬期の施工で、雪寒仮囲い等の特別な足場と給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、() 書きの 7. 冬期の施工で、雪寒仮囲い等の特別な足場と給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、() 書きの 数値を使用するものとし、足場費及び養生費については、「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」によ 数値を使用するものとし、足場費及び養生費については、「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」によ り別途計上する。 り別涂計上する。 8. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 8. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 9. 躯体部をコンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第IV 9. 躯体部をコンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第IV 編第4章共同溝工①-2共同溝工(2)」により別途計上する。 編第4章共同溝工①-2共同溝工(2)」により別途計上する。 なお、コンクリート1日当り打設量は、躯体部87m3を標準とする。 なお、コンクリート1日当り打設量は、躯体部78m3を標準とする。 10. 化粧型枠を使用する場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工」により化粧型枠の必要数量 10. 化粧型枠を使用する場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工」により化粧型枠の必要数量 分について化粧型枠率分費用を加算する。 分について化粧型枠率分費用を加算する。 11. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。 11. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。 ただし、目地・止水板についてはスリップバー方式を標準としており、スリップバー方式以外の継手構造 ただし、目地・止水板についてはスリップバー方式を標準としており、スリップバー方式以外の継手構造 (カラー方式等) を使用する場合は、別途計上する。なお、特殊目地材の材料費は必要量を別途計上す (カラー方式等)を使用する場合は、別途計上する。なお、特殊目地材の材料費は必要量を別途計上す 12. 可とう性継手、取替式止水板及びグラウト管等を施工する場合は、別途計上する。 12. 可とう性継手, 取替式止水板及びグラウト管等を施工する場合は, 別途計上する。 13. 防水工・防水層保護工を施工する場合は、「第IV編第4章共同溝工①-2共同溝工(2)」により別途計 13. 防水工・防水層保護工を施工する場合は、「第Ⅳ編第4章共同溝工①-2共同溝工(2)」により別途計 上する。 上する。 14. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打散時のホースの筒先作業等を行う機械補助労務を含む。 14. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打設時のホースの筒先作業等を行う機械補助労務を含む。 15. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤塗布及びケレン作業を含む。 15. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤塗布及びケレン作業を含む。 16. 1層2連の場合の考え方は、次表を標準とする。 16. 1層2連の場合の考え方は、次表を標準とする。 表3.4 雑工種及び諸雑費に含まれる内容 表3.4 雑工種及び諸雑費に含まれる内容 機械運転経費 雑機械器具損料 雑機械器具損料 労 務 費 材料費 労 務 費 機械運転経費 材料費 材料投入,締固め機械 砕石材料 材料投入, 締固め機械 砕石材料 基 礎 砕 石 敷設・転圧労務 基 礎 砕 石 敷設・転圧労務 打設用機械, 打設用機械, コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ, バケット等 コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ, バケット等 コンクリート. コンクリート. 雑 均しコンクリート 雑|均しコンクリート 養生材, 均し型枠材料等 養生材が均し型枠材料等 電方に関する経費 電力に関する経費 打設用機械, 圧送管 電力に関する経費 打設用機械, 圧送管 電力に関する経費 コンクリートバイブレータ、 工事用水中モータポンプ、 パケット等 コンクリート, 養生材、型枠材料等 種 歩床部コンクリート コンクリート, 型枠材料等 種 歩床部コンクリート 目 地 ・ 止 水 板 設置労務 目地・止水板材料 目地・止水板 設置労務 目地・止水板材料 コンクリートバイプレータ、 工事用水中モータポンプ等 コンクリートパイプレータ 工事用水中モータポンプ等 電力に関する経費 養生材 コンクリート関係 電力に関する経費 養生材 コンクリート関係 諸 諸 持上げ(下げ)機械、 電力に関する経費 持上げ(下げ)機械, 電力に関する経費 電気ドリル、電気ノコギリ等

表3.5 1層2連の場合

持上げ (下げ) 機械

持上げ (下げ) 機械

型枠関係

足場関係

支 保 関 係

雑

費

② 334

電気ドリル, 電気ノコギリ等

_

足場工仮設材、安全ネット等

支保工仮設材,

17.00	
	適用する歩掛区分
同一断面の場合	1連分のB, Hで決定
異形断面の場合	共同溝工(2)により別途計上する

W-4-10-4

	適用する歩掛区分
同一断面の場合	1連分のB, Hで決定
異形断面の場合	共同溝工(2)により別途計上する

表3.5 1層2連の場合

持上げ (下げ) 機械

持上げ (下げ) 機械

足場工仮設材、安全ネット等

支保工仮設材,安全ネット等

_

② 334 W-4-10-4

型枠関係

足場関係

支 保 関 係

雑

費

IΗ 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-1共同溝工(1) (構造物単位) 4. 単 価 表 4. 単 価 表 IV-4-(1)-6(1) 共同溝工10㎡当り単価表 [共同溝工(1)] (1) 共同構工10㎡当り単価表 [共同構工(1)] (2336)称 単 位 数 量 摘 要 名 称 規 格 単位 数量 摘 要 土木一般世話役 土木一般世話役 人 表3.3 人 表3.3 特殊作業員 特殊作業員 H HH 11 普 通 作 業 員 H H 普通作業員 H 型わく工 11 H 型 わくエ 11 II とびエ 11 11 e v I 11 11 m³ コンクリート 表3.3, 式3.1 コンクリート m³ 表3.3, 式3.1 コ ン ク リ ー ト トラック架装・ブーム式 表3.3 コ ン ク リ ー ト トラック架装・ブーム式 表3.3 h h ポ ン プ 車 運 転 圧送能力90~110㎡/h 機械損料 ポンプ車運転 圧送能力90~110㎡/h 機械損料 圧送管組立・撤去費 (2)単価表 必要に応じて計上 圧送管組立・撤去費 (2) 単価表 必要に応じて計上 m m 10 10 10 必要に応じて計上(注) 特別な養生工 10 必要に応じて計上(注) 特別な養生工 H 11 基礎砕石 表3.3 必要に応じて計上 基礎砕石 表3.3 必要に応じて計上 式 式 1 1 雑 均しコンクリート 均しコンクリート 11 1 11 11 1 種 歩床部コンクリート 歩床部コンクリート 11 目地・止水板 目地・止水板 11 諸 諸 雑 表3.3 雑 表3.3 11 1 計 31 (注) 特別な養生工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3養生工(特殊養生)」、「第 (注) 特別な養生工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3養生工(特殊養生)」、「第 Ⅱ編第5章仮設工(9-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。 Ⅱ編第5章仮設工⑬-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。 (2) 躯体部圧送管組立・撤去費 10㎡当り単価表 (2) 躯体部圧送管組立・撤去費 10㎡当り単価表 名 称 名 称 単 位 数 量 単 位 数 量 規 格 摘 要 摘 要 人 0.50×L/B 普 通 作 業 員 0.50×L/B 表3.3(注)9 普 通 作 業 員 表3.3(注)9 人 諸 雑 費 諸 雑 費 式 走 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 2. Bは、日当り標準打設量 (87m) とする。 2. Bは、日当り標準打設量 (78㎡) とする。 (3) 機械運転単価表 (3) 機械運転単価表 機械名 規 格 適用単価表 指定事項 機械名 規 格 適用単価表 指定事項 機械損料1→コンクリートポンプ車 機械損料1→コンクリートポンプ車 (トラック架装・ブーム式 圧送能 (トラック架装・ブーム式 圧送能 力90~110㎡/h) 力90~110㎡/h) トラック架装・ブーム式 トラック架装・ブーム式 コンクリートポンプ車 コンクリートポンプ車 機一3 機械損料2→コンクリート圧送管 機一3 機械損料2→コンクリート圧送管 圧送能力90~110㎡/h 圧送能力90~110㎡/h (径125mm) (径125mm) 単位→m・h 単位→m・h 数量→L×1h 数量→L×1h (注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 (注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 IV-4-10-6 IV-4-10-6 ② 336 ② 336

頁	新	旧
第IV編第 4 章 ①共同溝工 ①-2共同溝工(2) IV-4-①-17 (2)347)	11-4 躯体部コンクリートボンブ車打設を終 個体部コンクリートボンブ車打設の設工が掛け、次表を信仰とする。 後11.4 コンクリートボンブ車打設の設工が掛け、次表を信仰とする。 後11.4 コンクリートボンブ車打設の設工が掛け、次表を信仰とする。 後11.4 一段 世	11-4
	IV−4−①−17 ② 347	IV−4−①−17 ② 347

ĺΗ 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-2共同溝工(2) 11-5 均しコンクリート部コンクリート工施工歩掛 11-5 均しコンクリート部コンクリート工施工歩掛 IV-4-(1)-1811-5-1 コンクリートポンプ重打設歩掛 11-5-1 コンクリートポンプ車打設歩掛 (2348)均しコンクリート部コンクリートポンプ車打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 均しコンクリート部コンクリートポンプ車打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 表11.7 コンクリートポンプ車打設施工歩掛 (10m³当り) 表11.7 コンクリートポンプ車打設施工歩掛 (10m³当り) 名 称 規 格 単位 数量 名 称 規 格 数量 土木一般世話役 土木一般世話役 人 0.12 人 0.13 特 殊 作 業 員 特 殊 作 業 員 0.51 0.46 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 0.58 0.52 11 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h 0.86 h 0.96 雑 費 杂隹 費 率 % 率 % 1 1 (注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 (注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 2. 諸雑費は、パイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、コンクリートポンプ車 2. 諸雑費は、バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、コンクリートポンプ車 損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 3. 日当り標準打設量は, 24m³とする。 3. 日当り標準打設量は, 22m3とする。 4. コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超える場合は、超えた部分の圧送管損料を計上する。また、 4. コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超える場合は、超えた部分の圧送管損料を計上する。また、 超えた部分の圧送管延長分について次表の労務を組立・撤去歩掛として計上する。 超えた部分の圧送管延長分について次表の労務を組立・撤去歩掛として計上する。 なお、これにより難い場合は、別途考慮する。 なお, これにより難い場合は, 別途考慮する。 表11.8 圧送管組立·撤去歩掛 (10m当り) 表11.8 圧送管組立·撤去歩掛 (10m当り) 単位 数量 名 称 単位 数量 名 称 普 通 作 業 員 人 普 通 作 業 員 人 0.20 0.20 (注) 圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。 (注) 圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。 11-5-2 差生工 11-5-2 養生工 均しコンクリート部一般養生の施工歩掛は、次表を標準とする。 均しコンクリート部一般養生の施工歩掛は、次表を標準とする。 表11.9 養生工歩掛 (10m³当り) 表11.9 養生工歩掛 (10m³当り) 名 称 単位 数量 名 称 単位 数量 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 人 人 0.31 0.34 雑 費 率 % 16 雑 費 率 % 16 (注) 1. 諸雑費は、シート・養生マット・角材・パイプ、散水等に使用する機械の損料及 (注) 1. 諸雑費は、シート・養生マット・角材・パイプ、散水等に使用する機械の損料及 び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上 び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上 限として計上する。 限として計上する。 2. 給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、別途計上する。 2. 給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、別途計上する。 11-6 歩床部コンクリート工施工歩掛 11-6 歩床部コンクリート工施工歩掛 11-6-1 コンクリート打設工法の選定 11-6-1 コンクリート打設工法の選定 歩床部のコンクリート打設工法の選定は、次表を標準とする。 歩床部のコンクリート打設工法の選定は、次表を標準とする。 ただし、現場条件により、これにより難い場合は、現場条件に適した工法を選定する。 ただし、現場条件により、これにより難い場合は、現場条件に適した工法を選定する。 表11.10 歩床部コンクリート打設工法の選定 表11.10 歩床部コンクリート打設工法の選定 打設工法 選定条件 打設工法 選定条件 人力打設 日当り打設量が5m3未満でかつ水平打設距離が30m未満の場合 日当り打設量が5m3未満でかつ水平打設距離が30m未満の場合 人力打設 コンクリート ポンプ車打設 コンクリートポンプ車打設 日当り打設量が5m³以上の場合,又は水平打設距離が30m以上の場合 日当り打設量が5m3以上の場合,又は水平打設距離が30m以上の場合 (注) 1. 日当り打設量は、標準断面を対象とし、作業工程を勘案して打設回数を算定し、コンクリート量を打設日数で除した値とする。 (注) 1. 日当り打設量は、標準断面を対象とし、作業工程を勘案して打設回数を算定し、コンクリート量を打設日数で除した値とする。 2. 水平打設距離は、打設可能箇所(換気孔、ジョイントホール等)から打設箇所中心までの距離 2. 水平打設距離は、打設可能箇所(換気孔、ジョイントホール等)から打設箇所中心までの距離 とする。 とする。 ② 348 IV-4-10-18 ② 348 IV-4-①-18

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-2共同溝工(2) 11-6-2 歩床部コンクリートポンプ車打設歩掛 11-6-2 歩床部コンクリートポンプ車打設歩掛 IV-4-(1)-19歩床部コンクリートポンプ車打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 歩床部コンクリートポンプ車打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 (2349)表11.11 歩床部コンクリートポンプ車打設施工歩掛 (10m3当り) 表11.11 歩床部コンクリートポンプ車打設施工歩掛 (10m³当り) 名 称 規 格 単位 数量 名 称 規 格 単位 数量 土木一般世話役 土木一般世話役 人 0.89 特 殊 作 業 員 特殊 作業員 4.89 4. 4 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 2.9 3.22 コンクリートポンプ車運 トラック架装・ブーム式 転 圧送能力65~85㎡/h コンクリートポンプ車運 トラック架装・ブーム式 転 圧送能力65~85㎡/h h 5.89 5. 3 2 2 諸 雑 費 率 % 諸 雑 費 率 % (注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 (注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 2. 諸雑費は、バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表 2. 諸雑費は、バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表 の率を乗じた金額を上限として計上する。 の率を乗じた金額を上限として計上する。 3. 日当り標準打設量は、8㎡とする。 3. 日当り標準打設量は, 7.2 ㎡とする。 4. 圧送管が必要な場合は, 圧送管延長分の圧送管損料を別途計上する。また, 圧送管延長分に 4. 圧送管が必要な場合は、圧送管延長分の圧送管損料を別途計上する。また、圧送管延長分に ついて次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。 ついて次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。 表11.12 圧送管組立・撤去歩掛 (10m当り) 表11.12 圧送管組立·撤去歩掛 (10m当り) 名 称 単位 数量 名 称 単位 数量 普 通 作 業 員 人 普 通 作 業 員 人 (注) 圧送管の固定足場 (受枠) を必要とする場合は、別途計上する。 (注) 圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。 11-6-3 歩床部コンクリート人力打設歩掛 11-6-3 歩床部コンクリート人力打設歩掛 歩床部コンクリート人力打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 歩床部コンクリート人力打設の施工歩掛は、次表を標準とする。 表11. 13 歩床部コンクリート人力打設歩掛 (10m3当り) 表11. 13 歩床部コンクリート人力打設歩掛 (10 m 3 当 り) 名 称 単位 数量 名 称 単位 数量 土木一般世話役 土木一般世話役 人 人 1.4 特殊作業員 特殊作業員 3.8 4. 22 普 通 作 業 員 11 普 通 作 業 員 6.78 6.1 諸 雑 費 率 % 諸 雑 費 率 % 2 (注) 1. 上表には、シュート・ホッパ架設、移設等の作業及び人力運搬車による現場内小 (注) 1. 上表には、シュート・ホッパ架設、移設等の作業及び人力運搬車による現場内小

- 運搬を含む。
- 2. 諸雑費は、シュート・ホッパ・バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用 であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

11-6-4 養生工

歩床部一般養生の施工歩掛は、次表を標準とする。

表11.14 養生工歩掛						(10m³当り)
	名	1	弥		単位	数量
普	通	作	業	員	人	0.62
諸	雑		費	率	%	8

- (注) 1. 諸雑費は、シート・養生マット・角材・パイプ・散水等に使用する機械の損料及び電 力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として 計トする
 - 2. 給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、別途計上する。

IV-4-10-19 ② 349

- 運搬を含む。
 - 2. 諸雑費は、シュート・ホッパ・バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用 であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

11-6-4 養生工

歩床部一般養生の施工歩掛は、次表を標準とする。

	表11.14 養生工歩掛					(10m³当り)
	名	5 7	练		単位	数量
普	通	作	業	員	人	0.69
諸	雑		費	率	%	8

- (注) 1. 諸雑費は、シート・養生マット・角材・パイプ・散水等に使用する機械の損料及び電 力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として 計トする。
 - 2. 給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、別途計上する。

IV-4-10-19 ② 349

旧 第Ⅳ編第4章 ①共同溝工 ①-2共同溝工(2) (4) 歩床部型枠100m (排水溝延長) 当り単価表 (4) 歩床部型枠100m (排水溝延長) 当り単価表 IV-4-(1)-25単 位 数 量 摘 要 単 位 数 量 摘 要 (2355)土木一般世話役 土木一般世話役 型わく 型わく # 11 " " 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 諸雑 雑 式 1 " 式 1 " 13-8 コンクリートエ 13-8 コンクリート工 (1) コンクリートポンプ車打散 (躯体部) 10㎡当り単価表 (1) コンクリートポンプ車打設 (躯体部) 10㎡当り単価表 名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要 規 格 単位数量 摘 要 土木一般世話役 土木一般世話役 表11.4 表11.4 特殊作業員 特殊作業員 II II 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 コンクリート 式11.1 コンクリート m 式11.1 トラック架装・プーム式 表11.4 トラック架装・プーム式 表11.4 コンクリートポンプ車運転 h コンクリートポンプ車運転 h 圧送能力90~110㎡/h 機械損料 圧送能力90~110㎡/h 機械損料 10 (2) 単価表 10 (2) 単価表 圧送管組立・撤去費 11 10 (3) 単価表 必要に応じて計上 圧送管組立·撤去費 11 10 (3) 単価表 必要に応じて計上 式 式 1 表11.4 1 表11.4 計 計 (2) 養生工(躯体部)10㎡当り単価表 (2) 養生工(躯体部)10㎡当り単価表 名 称 単 位 数量 摘 要 名 称 単 位 数量 摘 要 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 人 表11.6 表11.6 諸 雑 費 式 諸 雑 費 式 (注) 特殊養生については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3. 養生工(特殊養生)」、「第 (注) 特殊養生については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3.養生工(特殊養生)」、「第 Ⅱ編第5章仮設工図-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。 Ⅱ編第5章仮設工⑬-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。 (3) 圧送管組立・撤去費 (躯体部) 10㎡当り単価表 (3) 圧送管組立・撤去費 (躯体部) 10㎡当り単価表 数 量 摘 要 数 量 摘 要 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 人 0.50×L/B 表11.5 0.50×L/B 表11.5 人 式 雑 式 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。 2. Bは,表11.4(注)3の日当り標準打設量(87㎡)とする。 2. Bは、表11.4 (注) 3の日当り標準打設量 (78㎡) とする。 IV-4-①-25 IV-4-①-25 ② 355 ② 355

頁	新	旧
taka 1 taka		
第Ⅳ編第4章		
①共同溝工 ①-2共同溝工(2)		
IV-4-①-26	(4) コンクリートポンプ車打設(均しコンクリート部)10㎡当り単価表	(4) コンクリートポンプ車打設(均しコンクリート部)10m ³ 当り単価表
(2)356)	名称 規格 単位 数量 摘要	名称 規格 単位 数量 摘要
	土木一般世話役 人 表11.7 特殊作業員 """	土 木 一 般 世 話 役
	普通作業員 ""	普通作業員 ""
	コンクリート m 式11.1	コンクリート m 式11.1
	コンクリート トラック架装・ブーム式 表11.7 ポンプ車運転 圧送能力90~110㎡/h 機械損料	コンクリート トラック架装・ブーム式 h 機械損料
	表 生 エ m 10 (5)単価表	ボ ン グ 単 連 転 圧 左 能 刀 90~110 m / n (26) 単価表
	圧送管組立・撤去費 "10 (6)単価表 必要に応じて計上	圧送管組立・撤去費 "10 (6)単価表 必要に応じて計上
	諸 雑 費 式 1 表I1.7	諸 雑 費 式 1 表11.7
	<u></u>	計
	_ (5) 養生工 (均しコンクリート部) 10㎡当り単価表	(5) 養生工(均しコンクリート部)10㎡当り単価表
	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要	名 称
	普通作業員 人 表11.9 諸維費 式 1 "	普通作業員 人 表11.9 諸維費 式 1 "
	計	指
	(注) 特殊養生については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3. 養生工(特殊養生)」、「第	(注) 特殊養生については、「第Ⅱ編第4章コンクリートエ①コンクリートエ5-3.養生工(特殊養生)」、「第
	Ⅱ編第5章仮設工⑬-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。	Ⅱ編第5章仮設工⑭-2雪寒仮囲い工5.養生工(Pタイプ,Wタイプ,PWタイプ共通)」によるものとする。
	(6) 圧送管組立・撤去費(均しコンクリート部)10㎡当り単価表	(6) 圧送管組立・撤去費 (均しコンクリート部) 10㎡当り単価表
	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要
	普通作業員 人 0.20×L/B 表11.8 諸維費 式 1	普通作業員 人 0.20×L/B 表11.8 諸雑費 式 1
	#I AE A	計
	(注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。	(注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。
	2. Bは,表11.7 (注)3の日当り標準打設量(24 ml)とする。	2. Bは,表11.7 (注)3の日当り標準打設量 (22㎡) とする。
	(7) コンクリートポンプ車打設 (歩床部) 10㎡当り単価表	(7) コンクリートポンプ車打設 (歩床部) 10㎡当り単価表
	名称 規格 単位 数量 摘要	名 称 規 格 単位 数量 摘要 土木一般世話役 人 表11.11
	土 木 一 般 世 話 役 人 表11.11 特 殊 作 業 員 " "	土 木 一 般 世 話 役
	普通作業員 ""	普通作業員 ""
	コンクリート m 式11.1	コンクリート m 式11.1
	コンクリート トラック架装・ブーム式 表11.11 ポンプ車運転 圧送能力65~85㎡/h 機械損料	コンクリート トラック架装・ブーム式 表11.11 ポンプ車運転 圧送能力65~85㎡/h 機械損料
	ポンプ車運転 圧送能力65~85㎡/h 機械損料 養生 エ ㎡ 10 (8)単価表	ボーン プー単 連 転 圧送能力65~85m/ n 機械扱料 養 生 エ
	圧送管組立・撤去費 "10 (9)単価表 必要に応じて計上	圧送管組立・撤去費 "10 (9)単価表 必要に応じて計上
	諸 雑 費 式 1 表11.11	諸 雑 費 式 1 表11.11
	<u></u>	#H
	② 356 IV-4-①-26	② 356 IV-4-①-26

頁		旧
第Ⅳ編第4章		
①共同溝工		
①-2共同溝工(2)		
IV-4-(1)-27	(8) 養生工(歩床部)10㎡当り単価表	(8) 養生工(歩床部)10㎡当り単価表
(2357)	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要	名称 規格 単位 数量 摘要
,	普通作業員 人 表11.14	普通作業員 人 表11,14
	諸 雑 費 式 1 "	諸 雑 費 式 1 " 計
	計 (注) 特殊養生については,「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリートエ5-3. 養生工 (特殊養生)」,「第	
	Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工5. 養生工 (Pタイプ, Wタイプ, PWタイプ共通)」によるものとする。	Ⅱ編第5章仮設工図−2雪寒仮囲い工5. 養生工 (Pタイプ, Wタイプ, PWタイプ共通)」によるものとする。
	(9) 圧送管組立・撤去費 (歩床部) 10㎡当り単価表 名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要	(9) 圧送管組立・撤去費(歩床部) 10㎡当り単価表 名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要
	**	
	T	普通作業員 人 0.25×L/B 表11.12 諸雄費 式 1
	計	計
	(注) 1. Lは, 必要な圧送管延長とする。	(注) 1. Lは, 必要な圧送管延長とする。
	2. Bは、表11.11 (注) 3の日当り標準打設量 (8㎡) とする。	2. Bは,表11.11 (注) 3の日当り標準打設量 (7.2 ㎡) とする。
	(10) i -f- 大下部(-102) k in Hi / Lu -re-	(10) i 方式型10~3以 h Hi 在中
	(10) 人力打設10㎡当り単価表 名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要	(10) 人力打設10㎡当り単価表 名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要
	土 木 一 般 世 話 役	土 木 一 般 世 話 役
	特殊作業員	特殊作業員
	音 通 作 来 貝	音通作業員
	後 生 工	後 生 エ # 10 (8)単価表
		To (6) Table 2 Tabl
	21 21	計
	13-9 覆工板開閉工	13-9 稷工板開閉工
	覆工面積100点当り単価表名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要	覆工面積100㎡当り単価表名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要
	土木一般世話役 人 表12.1 とびエ " "	土木一般世話役 人 表12.1 とびエ " "
	音 通 作 業 員	と び エ " " 普 通 作 業 員 " "
	油圧伸縮ジブ型・	日 通 1F 来 貝 ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″ ″
	ラフテレーングレーン 排出ガス対策形 (第1が其準値) 日 表12.1	ラフテレーソクレーン 排出ゼラ対策形(第1次共発統) 日 次12.1
	25 t 吊 機械資料	25 t 吊 機械賃料
	諸 雑 費 式 1	諸 雑 費 式 1
	#H	it it
	IV-4-①-27 ② 357	IV-4-①-27 ② 357
	The same same same same same same same sam	

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 旧 第Ⅳ編第7章 ④プレビーム桁製作工及び架設 ④-1プレビーム桁製作工 (現場) 5-4 コンクリートエ 5-4 コンクリートエ IV-7-4-4(1) 下フランジ用コンクリート及びウェブ用コンクリートの打設・養生作業であり、次表を標準とする。 (1) 下フランジ用コンクリート及びウェブ用コンクリートの打設・養生作業であり、次表を標準とする。 (2670)表5.6 コンクリート打設歩掛 (1㎡当り) 表5.6 コンクリート打設歩掛 (1㎡当り) 名 称 単 位 数 量 名 称 単 位 数 量 土木一般世話役 0.06 土木一般世話役 0.07 人 特殊作業員 0.27 特 殊 作 業 員 0.30 0.36 普通作業員 普通作業員 保温 0.44 諸 雑 費 率 17 諸 雑 費 率 17 (注) 諸雑費は、コンクリートポンプ車損料、シート、養生マット、練炭、鋼管パイプ、足場 (注) 諸雑費は、コンクリートポンプ車損料、シート、養生マット、練炭、鋼管パイプ、足場 板等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 板等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 (2) コンクリートの使用量 (2) コンクリートの使用量 コンクリートの使用量は次式による。 コンクリートの使用量は次式による。 使用量 (m3) =設計量× (1+K) …式 5.2 使用量 (m3) = 散計量× (1+K) ···式 5.2 K:ロス率 K:ロス率 表5.7 ロス率(K) 表5.7 ロス率(K) 材料 ロス率 材料 ロス率 コンクリート +0.02 コンクリート +0.02

(1回〔桁2本〕当り)

5-5 リリースエ

(1) リリースエ

リリース (緊張解放)・上桁回転・桁移動仮置き作業で次表を標準とする。

表5.8 リリース工歩掛

			数 量				
名 称	単位	プレビーム区間長	プレビーム区間長	プレビーム区間長	プレビーム区間長		
		22m未満	22m以上30m未満	30m以上40m未満	40m以上		
橋りょう世話役	人	0. 5	1.4	1.7	2.0		
橋りょう特殊工	II.	2. 5	6.0	7. 4	8.8		
普通作業員	11	0, 9	2, 8	3, 5	4. 2		

(注) リリース回数は、プレフレクション工と同様とする。

(2) 主桁解体工(分割工法)

分割工法にて製作した主桁をリリース後解体する作業であり、次表を標準とする。

	表5.	9 主桁解体工歩掛	(主桁1本当り)
		数	量
名 称	単位	プレビーム区間長	プレビーム区間長
		30m未満	30m以上
橋りょう世話役	人	0.1	0. 2
橋りょう特殊工	"	0.7	1. 2
普通作業員	n	0.1	0. 2

@ 670 IV-7-4-4 5-5 リリースエ (1) リリースエ

リリース (緊張解放)・上桁回転・桁移動仮置き作業で次表を標準とする。

表5.8 リリースエ歩掛 (1回 [桁2本] 当り) 名 称 単位 プレビーム区間長 プレビーム区間長 プレビーム区間長 プレビーム区間長 22m未満 22m以上30m未満 30m以上40m未満 40m以上 橋りょう世話役 0.5 1.4 1.7 2.0 橋りよう特殊工 " 2.5 6.0 7.4 8.8 普通作業員 " 0.9 2.8 3. 5 4.2

(注) リリース回数は、プレフレクション工と同様とする。

(2) 主桁解体工(分割工法)

分割工法にて製作した主桁をリリース後解体する作業であり、次表を標準とする。

表5.9 主桁解体工歩掛 (主桁1本当り)				
		数	量	
名 称	単位	プレビーム区間長	プレビーム区間長	
		30m未満	30m以上	
橋りょう世話役	人	0. 1	0.2	
橋りょう特殊工	n	0.7	1. 2	
普通作業員	n	0.1	0.2	

② 670 IV-7-4-4

旧 第IV編第7章 ⑦ポストテンション桁製作工 3. 施工步掛 3. 施工步掛 IV-7-(7)-23-1 ポストテンション桁製作工 3-1 ポストテンション桁製作工 (2690)ポストテンション桁製作工とはフロー図に示す通り、門型クレーンの設置からポストテンションT桁の製 ポストテンション桁製作工とはフロー図に示す通り、門型クレーンの設置からポストテンションT桁の製 作にかかる一連の作業であり、歩掛は次表を標準とする。 作にかかる一連の作業であり、歩掛は次表を標準とする。 表3.1 ポストテンション桁製作工歩掛 (人/コンクリート 10 ㎡当り) 表3.1 ポストテンション桁製作工歩掛 (人/コンクリート 10 ㎡当り) 橋りょう世話役 橋りょう特殊工 土木一般世話役 特殊作業員 橋りょう世話役 橋りょう特殊工 土木一般世話役 特殊作業員 1.3 1.3 4.5 型わくエ **とび**I 普通作業員 鉄筋工 型わくエ とびエ 普通作業員 3.9 9.3 3.9 (注) 1. コンクリート打設方法は、門型クレーン打設を標準とする。 (注) 1. コンクリート打設方法は、門型クレーン打設を標準とする。 2. コンクリート養生は、散水、給熱を問わず適用出来る。 2. コンクリート養生は、散水、給熱を問わず適用出来る。 3. 重量台車による縦移動仮置きは、別途計上する。 3. 重量台車による縦移動仮置きは、別途計上する。 3-2 諸雑費 3-2 諸雑費 諸雑費は、鉄筋、鋼製シース等の材料費、ポストテンション桁製作工にかかわる消耗品費、電力に関する 諸雑費は、鉄筋、鋼製シース等の材料費、ポストテンション桁製作工にかかわる消耗品費、電力に関する 経費等の費用であり、表3.1の労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 経費等の費用であり、表3.1の労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 表3.2 諸雑費率 (%) 表3.2 諸雑費率 諸雑費率 33 諸雑費率 4. 使用材料 4. 使用材料 使用材料として計上するものはコンクリート、PCケーブル、定着具のみとし、コンクリート、PCケーブルの 使用材料として計上するものはコンクリート、 P C ケーブル、 定着具のみとし、 コンクリート、 P C ケーブルの 使用量は次式による。また,定着具は必要数量計上する。なお,PCケーブルの切断ロス等のスクラップ控除はし 使用量は次式による。また、定着具は必要数量計上する。なお、 P C ケーブルの切断ロス等のスクラップ控除はし 使用量=設計量× (1+K) …… 式4.1 使用量=設計量× (1+K) ······ 式 4.1 K:ロス率 K:ロス率 表4.1 ロス率(K) 表4.1 ロス率(K) 材 料 ロス率 材 料 ロス率 コンクリート +0.02コンクリート +0.02PCケーブル +0.05PCケーブル +0.05② 690 IV-7-⑦-2 ② 690 IV-7-⑦-2

旧 第Ⅳ編第7章 ⑦ポストテンション桁製作工 5. 機種の選定等 5. 機種の選定等 IV-7-(7)-35-1 機種の選定 5-1 機種の選定 (2691)ポストテンション桁製作工に、使用する機械・規格は次表を標準とする。 ポストテンション桁製作工に、使用する機械・規格は次表を標準とする。 表5.1 機種の選定 (1工事当り) 表5.1 機種の選定 (1工事当り) 損 料 額 損 料 額 単 位 数 量 供用日数 単 位 数 量 供用日数 作業種別 名 称 作業種別 名 称 規 格 円/供用日 円/供用日 1300kN(130 t)型 1300kN(130 t)型 6,500 緊張ジャッキ 緊張ジャッキ・ 緊 張 工 2 2200kN(225 t)型 8, 100 緊 張 工 2 2200kN(225 t)型 8, 100 ポンプ ポンプ 3100kN(320 t)型 3100kN(320 t)型 11,000 11,000 門型クレーン 3.0 t 吊 基 門型クレーン 3.0 t 吊 基 門型クレーンエ 10,500 門型クレーンエ 10,500 電動ホイスト 3.0 t 吊用 台 電動ホイスト 3.0 t 吊用 台 A A ポストテンショ ポストテンショ 1組当りの 1組当りの 主桁製作用型枠 鋼製型枠 m· Н 必要量 Α 378 主桁製作用型枠 鋼製型枠 m·н 必要量 A 378 ン桁用 型枠面積を計上 型枠面積を計上 ン桁用 (注) 1. A=供用日数 (注) 1. A=供用日数 =0. 165 \times V \times α + 20. 66 $=0.16 \times V \times \alpha + 20$ V:コンクリート設計量 (m) V:コンクリート設計量 (m3) α:供用日補正係数 α:供用日補正係数 供用日補正係数は、下記による。 供用日補正係数は、下記による。 支間長L(m) 支間長L(m) L ≦35 35< L ≤40 40< L ≤45 L ≦35 35< L ≤40 40< L ≤45 1.0 0.73 0.60 1.0 0.73 0.60 2. 鋼製型枠面積の算出にあたっては、側部及び端部面積のみとし、定着部面積は考慮しないものとする。なお、底 2. 鋼製型枠面積の算出にあたっては、側部及び端部面積のみとし、定着部面積は考慮しないものとする。なお、底 型枠は主桁製作台を利用する。 型枠は主桁製作台を利用する。 3. 鋼製型枠は1組を標準とし必要数量を計上する。 3. 鋼製型枠は1組を標準とし必要数量を計上する。 5-2 雑機械費 5-2 雑機械費 雑機械費は,ポストテンション桁製作工に必要な表5.1の機械器具を除く雑機械の損料等の費用であり, 雑機械費は,ポストテンション桁製作工に必要な表5.1の機械器具を除く雑機械の損料等の費用であり, 表 5.1 の機械器具損料の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。 表 5.1 の機械器具損料の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。 表5.2 雑機械費率 表5.2 雑機械費率 雑機械費率 雑機械費率 59 59 IV-7-⑦-3 @ 691 IV-7-7-3 @ 691 土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 IΗ 第IV編第7章 ⑨ P C 橋架設工 5-2-3 コンクリート工歩掛 5-2-3 コンクリート工歩掛 IV-7-(9)-9型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。 型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。 (2704)表5.4 コンクリート工歩掛 表5. 4 コンクリート工歩掛 編成人員(人) 編成人員(人) 諸雑費率 諸雑費率 桁区分 桁区分 特殊作業員 型わくエ 普通作業員 (%) 特殊作業員 型わくエ 普通作業員 (%) 世話役 世話役 プレテンションT桁, ポストテンション桁 2.9 9.3 9.1 (7.5) 9(7) プレテンションT桁,ポストテンション桁 3. 22 4.44 9.3 10. 11 (8. 33) 9(7) 3.9 (2.4) 10(5) プレテンション床版桁 1.6 1.7 2.5 プレテンション床版桁 1. 78 2. 5 4. 33 (2. 67) 10 (5) (注) 1. コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート 10 ㎡当り 1.5時間とする。 (注) 1. コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート 10 ㎡当り 1.67時間とする。 2. 本歩掛はブーム打散を標準としているが困難な場合,又は現場条件により配管打散が適する場合は, 2. 本歩掛はブーム打設を標準としているが困難な場合,又は現場条件により配管打設が適する場合は, 上記歩掛にて配管打設も適用出来る。なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は90~100 ml/h とする。 上記歩掛にて配管打設も適用出来る。なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は90~100㎡/hとする。 3. 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務(30m以下)を含むものとし、30mを超える場合は「第11編 3. 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務(30m以下)を含むものとし、30mを超える場合は「第Ⅱ編 第4章コンクリート①コンクリート工」による。 第4章コンクリート①コンクリート工」による。 4. ブーム打設は打設高さ15m以下,投入水平距離15m以下の場合に適用する。 4. プーム打設は打設高さ 15m以下,投入水平距離 15m以下の場合に適用する。 5. 1日当り打設量は40㎡を標準とする。 5. 1日当り打設量は36 ㎡を標準とする。 6. 諸雑費は、型枠用材料、剥離材、養生マット及び電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表 6. 諸雑費は、型枠用材料、剥離材、養生マット及び電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表 の率を乗じた金額を上限として計上する。 の率を乗じた金額を上限として計上する。 7. 養生については、養生覆材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。 7. 養生については、養生糧材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。 保温養生又は給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は、() 内 保温養生又は給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は,()内 数値とし、養生費用は別途計上する。 数値とし、養生費用は別途計上する。 5-2-4 コンクリート使用量 5-2-4 コンクリート使用量 コンクリート使用量は、次式による。 コンクリート使用量は、次式による。 使用量(m)=設計量(m)×(1+K)……式5.2 使用量(m)=設計量(m)×(1+K)……式5.2 K:ロス率 K:ロス率 表5.5 ロス率(K) 表5.5 ロス率(K) ロス率 ロス率 +0.05+0.055-3 PCI 5-3 PCI 5-3-1 PC工歩掛 5-3-1 PC工歩掛 ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表を標準とする。 ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表を標準とする。 _____ (1- - 100 NO) -----

		表5.6 PC工歩掛			(ケーブル	100m当り
		規格	編成人員(人)			inter 644 office calco
桁形式	種類	PCケーブル	橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通 作業員	諸雑費率 (%)
	3.3. Ma w 1 553. 70	390kN(40t)型(1S17.8)			1.3	15
プレテンション桁	シングルストランド システム	450kN(50t)型(1S19.3)	0.7	2. 2		
		570kN(60t)型(1S21.8)				
	マルチワイヤ システム	700kN(70t)型(12W7A)	0.7	2. 6	1.6	14
ale tana a a		390kN(40t)型(1S17.8)				
ポストテンション桁	シングルストランド	450kN(50t)型(1S19.3)	0.7	3.3	1.9	10
	システム	570kN(60t)型(1S21.8)	1			
		950kN(100t)型(1S28.6)	0.9	3, 7	1.6	11

- (注)1.ケープル延長は、定着装置内面間の実延長とする。
 - 2. 諸雑費は,鋼製シース,グラウト材料,シール材料及び電力に関する経費等であり,労務費の合計額に 上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

IV-7-9-9

② 704

		表5.6 PC工歩掛			(ケーブル	100m当り
		規 格	1	編成人員(人))	諸雑費率
桁 形 式	種類	PCケーブル	橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通 作業員	(%)
	and the section of th	390kN(40t)型(1S17.8)				
プレテンション桁	シングルストランド	450kN(50t)型(1S19.3)	0.7	2.2	1.3	15
	システム	570kN(60t)型(1S21.8)				
	マルチワイヤ システム	700kN(70t)型(12\7A)	0.7	2. 6	1.6	14
J# → 1 == 1 × 3 / 1 / #=		390kN(40t)型(1S17.8)				
ポストテンション桁	シングルストランド	450kN(50t)型(1S19.3)	0.7	3.3	1.9	10
	システム	570kN(60t)型(1S21.8)]			
		950kN(100t)型(1S28.6)	0.9	3, 7	1.6	11

- (注)1. ケーブル延長は、定着装置内面間の実延長とする。
 - 2. 諸雑費は,鋼製シース,グラウト材料,シール材料及び電力に関する経費等であり,労務費の合計額に 上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② 704

IV-7-9-9

十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

土不上事標华積昇基华	(令和3年4月1日一部改止) 新旧対照表	
頁	新	旧
第Ⅳ編第7章		
9PC橋架設工		
		$_{i}$ $ $ $ $
	(18) 圧送管組立・撤去費 10 ㎡当り単価表	(18) 圧送管組立・撤去費 10 ㎡当り単価表
IV-7-9-22	コード番号 S 1911	コード番号 81911
(2)717)	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要	名 称 規 格 単位 数 量 摘 要
	普 通 作 業 員 人 0.46×L/40	普 通 作 業 員 人 0.46×L/36
	諸 雑 費 式 1 計	
	(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 30 mを超えた部分の圧送管延長とする。	(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 30 mを超えた部分の圧送管延長とする。
	(19) P C エケーブル 100m 当り単価表 コード番号 S 6 1 3 4	(19) PCエケーブル 100m当り単価表 コード番号 S 6 1 3 4
	名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要 橋 りょう 世 話 役 人 表5.6	名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要 橋 りょう 世 話 役 人 表5.6
	橋りょう特殊工 " "	橋りょう特殊工 " "
	普通作業員 ""	普通作業員 """
	P C ケ ー ブ ル kg 表5.7 , 太5.3 設計量×(1+ロス率)×単位質量	P C ケ ー ブ ル kg 表5.7 ,式5.3 設計量×(1+12ス率)×単位質量
	諸 雑 費 式 1 表5.6	諸 雑 費 式 1 表5.6 計
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
	(20) 緊張工 10 ケーブル当り単価表 コード番号 S 6 1 3 5	(20) 緊張工 10 ケーブル当り単価表 コード番号 S 6 1 3 5
	名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要 横りょう世話役 人 表5.8	名 称 規 格 単位数量 摘 要 橋りょう世話役 人 表5.8
	橋りょう特殊工 " "	橋りょう特殊工 " "
	普通作業員 ""	普通作業員 ""
	定 着 装 置 緊張側(緊張用) 組	定着装置緊張側(緊張用)組
	定着装置 固定側 (緊張用 パンは固定用) パータ アンは固定用 パータ アンは固定用 アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	定着装置 固定側(緊張用
	諸 雑 費 式 1 表5.8	諸 雑 費 式 1 表5.8
	計	
	(21) 機械器具損料1工事当り単価表 コード番号 S 6 1 3 9	(21) 機械器具損料 1 工事当り単価表 コード番号 S 6 1 3 9
	名 称 規 格 単位 数量 摘 要	名 称 規 格 単位 数量 摘 要
	緊張ジャッキ・ポンプ 供用日 表5.9	緊張ジャッキ・ポンプ 供用日 表5.9
	諸 雑 費 式 1	諸 雑 費 式 1
	11	<u> </u>
	(22) 桁下足場工(ポストテンション・プレテンション桁) 1 ㎡当り単価表	(22) 桁下足場工(ポストテンション・プレテンション桁) 1 ㎡当り単価表
	コード番号 86145	コード番号 S 6 1 4 5
	名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要	名 称 規 格 単 位 数 量 摘 要
	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	
	# 	計
		$_{I}$ \mid \mid
		$_{I}$ \mid \mid
		$_{i}$ \mid \mid
		$_{I}\left[\left[\left$
		$_{i}$ \mid \mid
	IV-7-9-22 ② 717	IV-7-⑨-22 ② 717
		<u> </u>

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

上/	(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ************************************	In .
	新	旧 I
第Ⅳ編第7章		
⑩PC橋片持架設工		
		O. O. 种价计用品
IV-7-(10-13	9-2 鉄筋使用量 鉄筋の使用量は、次式による。	9-2 鉄筋使用量 鉄筋の使用量は,次式による。
(2734)	使用量 (t) =散計量 (t) × (1+K) …式 9.1 K:ロス率	使用量 (t) =設計量 (t) × (1+K) …式 9.1 K:ロス率
	表9.2 ロス率(K)	表9. 2 口ス率(K)
	ロス率 +0.05 10. コンクリートエ	ロス率 +0.05 10. コンクリートエ
	10-1 コンクリートポンプ車打設歩掛	10-1 コンクリートポンプ車打設歩掛
	コンクリートポンプ車による打設は、次表を標準とする。	コンクリートポンプ車による打設は、次表を標準とする。
	表 10. 1 コンクリートポンプ車打設歩掛 (10 ㎡ 当り)	表 10. 1 コンクリートポンプ車打設歩掛 (10 ㎡ 当り)
	名 称 単位 コンクリートポンプ車打設 土 木 一 般 世 話 役 人 0.3	名 称 単位 コンクリートポンプ車打設 土 木 一 般 世 話 役 人 0.33
	特 殊 作 業 員 " 1.6	特殊作業員" 1.78
	普 通 作 業 員 " 1.4 コンクリートポンプ車運転 h 1.8	普通作業員 # 1.56 コンクリートポンプ車運転 h 2.00
	諸 雑 費 率 % 8	諸 雑 費 率 % 8
	(注)1. コンクリートポンプ車による打設以外は、別途考慮とする。 2. 上記歩掛に表面仕上、散水養生、端面処理、準備及び後片付け作業等を含む。	(注)1. コンクリートポンプ車による打散以外は,別途考慮とする。 2. 上記歩掛に表面仕上,散水養生,端面処理,準備及び後片付け作業等を含む。
	3. コンクリートの1日当り打設量は 40 m ² を標準とする。	3. コンクリートの1日当り打設量は 36 m² を標準とする。
	4. 配管打設は, 100 m程度の圧送管組立・撤去労務及び損料を含むものとし, 100 m以 上の圧送管組立・撤去を必要とする場合は「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」の設置・	4. 配管打設は、100 m程度の圧送管組立・撤去労務及び損料を含むものとし、100 m以 上の圧送管組立・撤去を必要とする場合は「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」の設置・
	撤去労務による。	撤去労務による。
	5. ブーム打設は、桁下空間が確保でき、打設高さ 20 m以下, 投入水平距離 20 m以下 の場合に適用する。	5. ブーム打散は、桁下空間が確保でき、打散高さ 20 m以下、投入水平距離 20 m以下 の場合に適用する。
	6. 諸雄費は、マット、養生剤、凝結遅延剤、モルタル等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。	6. 諸雑費は、マット、養生剤、凝結遅延剤、モルタル等の費用であり、労務費の合計額 に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
	に上数の命を乗した鉱機を上版として計上する。	に上級の学を来した金額を上限としく訂上する。
	10-2 コンクリート使用量 コンクリート使用量は、次式による。	10-2 コンクリート使用量 コンクリート使用量は、次式による。
	使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1+K) ・・・式 10.1 K:ロス率	使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1+K) …式 10.1 K:ロス率
	表 10. 2 ロス率(K)	表 10. 2 ロス率(K)
	ロス率 + 0.03	ロス率 + 0.03
	② 734 IV-7-⑩-13	② 734 IV-7-⑩-13

頁	新		旧	
(IV編第7章 ⑩PC橋片持架設工				
IV-7-10-25	(17) コンクリートポンプ車打設 10 ㎡ 当り単価表		(17) コンクリートポンプ車打設 10 ㎡ 当り単価表	
(2746)	名 称 規格	単位 数 量 摘 要	名 称 規格	単位 数 量 摘 要
	土木一般世話役	人 表 10.1	土木一般世話役	人 表 10.1
	特殊作業員	II II	特殊作業員	n
	普通作業員	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	普通作業員	" " " 式 10. 1, 表 10. 2
	生コンクリート	m 式 10. 1, 表 10. 2 h 表 10. 1, 機械損料	生 コ ン ク リ ー ト コンクリートポンプ車運転	h 表 10. 1, 极 10. 2
	Laboration at 1947 10 and	(18) 単価表		(18) 単価表
	圧送管組立・撤去費	式 1 必要に応じて計上	圧送管組立・撤去費	式 1 必要に応じて計上
	諸 雑 費	# 1 表 10.1	諸 雑 費	』
	計		計	
	(18) 圧送管組立・撤去費 10 ㎡ 当り単価表		(18) 圧送管組立・撤去費 10 ㎡ 当り単価表	
	名称 規格	単位 数 量 摘 要	名称 規格	単位 数 量 摘 要
	普 通 作 業 員 諸 雑 賽	人 0.46×L/40 式 1	普通作業員 諸 雑 費	人 0.46×L/36 式 1
	計	1	計	
	(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 100 mを超;	えた部分の圧送管延長とする。	(注) Lはコンクリートポンプ車から作業範囲 100 mを超え	た部分の圧送管延長とする。
	(19) PC鋼棒工1t当り単価表		(19) PC鋼棒工1t当り単価表	
	名 称 規 格	単位 数 量 摘 要	名 称 規 格	単位 数 量 摘 要
	橋りょう世話役	人 表11.1	橋りよう世話役	人 表11.1
	橋りょう特殊工		橋りょう特殊工	II II
	普 通 作 業 員	" "	普 通 作 業 員	" "
	P C 鋼 棒 φ O O	t 1	P C 鋼 棒 φ O O	t 1
	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 ラフテレーンクレーン (第1次基準値) 25 t 吊	老 11.1.機械貸料	カニー カー	日 表 11. 1, 機械賃料
	路 雑 費	式 1 "	路 雑 費	式 1 "
	計		計	
	(20) PC鋼棒継手工 10 筒所当り単価表 (20) PC鋼棒継手工 10 箇所当り単価表			
	名 称 規 格	単位 数 量 摘 要	名称規格	単位 数 量 摘 要
	橋りょう世話役	人 表11.2	橋りょう世話役	人 表11.2
	橋りょう特殊工	" #	橋りょう特殊工	" "
	普 通 作 業 員	11 11	普 通 作 業 員	11
	継 手 装 置 普通・G継手	組 10	継 手 装 置 普通·G継手	組 10
	諸 雑 費	式 1 表11.2	路 雑 費	式 1 表 11.2
	\$\		2 1-	
	RT .		#IT	
	② 746 IV-7-⑩-2	25	② 746 IV-7-⑩-25	;

ĺΗ 第IV編第7章 ⑪ポストテンション場所打 ホロースラブ橋工 3-1-2 施丁歩掛 3-1-2 施工歩掛 IV-7-(11)-2 コンクリート10m3当りの型枠 (R付含む) の製作・設置・撤去、コンクリート打設、表面仕上、養生、 コンクリート10m3当りの型枠(R付含む)の製作・設置・撤去,コンクリート打設,表面仕上,養生, (2751)円筒型枠設置の歩掛は、次表を標準とする。 円筒型枠設置の歩掛は、次表を標準とする。 ただし、次表は早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。 ただし、次表は早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。 なお、次表には型枠等の資材吊込を含む。 なお、次表には型枠等の資材吊込を含む。 (コンクリート10m³当り) (コンクリート10m³当り) 表3.2 コンクリート工歩掛 表3.2 コンクリート工歩掛 名 称 数量 名 称 数量 規 格 摘 要 規 格 摘 要 土木一般世話役 Y 土木一般世話役 人 0.91 0.9 わく 4.4 わく 11 4.4 CK 0.2 0.2 " 特殊作業員 特殊作業員 0.66 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 3.87 生コンクリート (注) 1 生コンクリート 10.2 (注) 1 10.2 コ ン ク リ ー ト トラック架装・ブーム式 ポ ン プ 車 運 転 圧送能力90~110㎡/h コ ン ク リ ー ト トラック架装・ブーム式 ポ ン プ 車 運 転 圧送能力90~110㎡/h H H 0.06 0.07 雑 費 雑 費 (注) 4, 5 (注) 4, 5 (注) 1. 生コンクリートのロス分の数量は、上表に含まれている。 (注) 1. 生コンクリートのロス分の数量は、上表に含まれている。 2. 円筒型枠の材料費は,必要数量を別途計上する。 2. 円筒型枠の材料費は,必要数量を別途計上する。 3. コンクリートの1日当り打設量は, 170 m3を標準とする。 3. コンクリートの1日当り打設量は、153m3を標準とする。 4. 諸雑費は、型枠用資材、コンクリート養生材、フォームタイ、Pコン、鋸損料、ドリル損料、コ 4. 諸雑費は、型枠用資材、コンクリート養生材、フォームタイ、Pコン、鋸損料、ドリル損料、コ ンクリートバイプレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等 ンクリートバイプレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等 の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 として計上する。 として計上する。 5. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被膜養生程度のものであり、給熱養生等(ジェットヒー 5. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被膜養生程度のものであり、給熱養生等(ジェットヒー タ,練炭,電気養生等)の特別な養生を必要とする場合の諸雑費率は,()内の値とし,養生 タ,練炭,電気養生等)の特別な養生を必要とする場合の諸雑費率は,()内の値とし,養生 費を別途計上する。 費を別途計上する。 6. 架設支保は、「第IV編第7章Q架設支保工」により別途計上する。 6. 架設支保は、「第IV編第7章@架設支保工」により別途計上する。 3-2 鉄筋工 3-2 鉄筋工 鉄筋の加工・組立の歩掛は、次表を標準とする。 鉄筋の加工・組立の歩掛は、次表を標準とする。 なお、次表には鉄筋の資材吊込を含む。 なお、次表には鉄筋の資材吊込を含む。 表3.3 鉄筋工歩掛 (1 t 当り) 表3.3 鉄筋工歩掛 (1 t 当り) 名 称 単位 数量 単位 数量 規格 摘 要 名 称 規 格 摘 要 土木一般世話役 J. 0.6 土木一般世話役 ٨ 0.6 筋 3.9 筋 3.9 CR 工 0.1 CK 0.1 普通作業員 普通作業員 IJ 2.2 11 2.2 鋼 D13~D32 1.05 鋼 D13~D32 t 1.05 t (注) 1 (注) 1 諸 雑 費 率 % % 6 6 (注) 3 諸 雑 費 率 (注) 3 (注) 1. 鉄筋の切断ロス等の数量は上表に含まれており、スクラップ控除は行わ (注) 1. 鉄筋の切断ロス等の数量は上表に含まれており、スクラップ控除は行わ ない。 たといっ 2. ガス圧接が必要な場合は、別途計上する。 2. ガス圧接が必要な場合は、別途計上する。 3. 諸雑費は、結束線、スペーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、溶接 3. 諸雑費は、結束線、スペーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、溶接 機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であ 機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であ り、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上す り、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上す 4. 鉄筋の加工・組立の日当り施工量は、2.1 t/日を標準とする。 4. 鉄筋の加工・組立の日当り施工量は、2.1 t/日を標準とする。 IV-7-10-2 2 751 IV-7-10-2 2 751

旧 第IV編第7章 迎ポストテンション場所打箱桁橋エ 3. 施 工 歩 掛 3. 施工步掛 $IV-7-\widehat{12}-2$ 3-1 コンクリートエ 3-1 コンクリートエ (2760)3-1-1 機種の選定 3-1-1 機種の選定 機械・規格は、次表を標準とする。 機械・規格は、次表を標準とする。 表3.1 機種の選定 表3.1 機種の選定 機械名 規 格 単位 数量 摘 要 機械名 規格 単位 数量 摘 要 コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m3/h 台 台 3-1-2 施工歩掛 3-1-2 施工歩掛 コンクリート10m3当りの型枠 (R付含む) の製作・設置・撤去, コンクリート打設, 表面仕上, 養生, コンクリート10m3当りの型枠 (R付含む) の製作・設置・撤去, コンクリート打設, 表面仕上, 養生, 中空部支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。 中空部支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。 ただし、次表は、早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。 ただし、次表は、早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。 なお, 次表には, 型枠等の資材吊込を含む。 なお, 次表には, 型枠等の資材吊込を含む。 (コンクリート10m3当り) (コンクリート10m3当り) 表3.2 コンクリート工歩掛 表3.2 コンクリート工歩掛 名 称 単位 数量 摘 要 名 称 単位 数量 摘 要 土木一般世話役 土木一般世話役 人 1.6 1.61 型わくエ 10.0 型わくエ 11 10.0 TK T. 0.4 TK I. 11 0.4 特殊作業員 特殊 作業 員 1.4 1.49 普 通 作 業 員 普 通 作 業 員 8, 67 8.6 生コンクリート 10. 2 (注) 1 生コンクリート 10.2 (注) 1 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h H H 0.06 0.07 (10) (10)諸 雑 費 率 % (注) 3, 4 諸 雑 費 率 % (注) 3, 4 (注) 1. 生コンクリートのロス率は、+0.02として上表に含まれている。 (注) 1. 生コンクリートのロス率は、+0.02として上表に含まれている。 2. コンクリートの1日当り打設量は, 170 m3を標準とする。 2. コンクリートの1日当り打設量は、153m3を標準とする。 3. 諸雑費は、型枠用資材、中空部支保用仮設材損料、コンクリート養生材、鋸損料、ドリル損料、コ 3. 諸雑費は、型枠用資材、中空部支保用仮設材損料、コンクリート養生材、鋸損料、ドリル損料、コ ンクリートバイプレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等 ンクリートバイプレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等 の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 として計上する。 として計上する。 4. 養生は,養生材の被覆,散水養生,被膜養生程度のものであり,給熱養生等の特別な養生を必 4. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被膜養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生を必 要とする場合の諸雑費率は, ()内の値として,養生費を別途計上する。 要とする場合の諸雑費率は, ()内の値として,養生費を別途計上する。 5. 架設支保は、「第IV編第7章@架設支保工」により別途計上する。 5. 架設支保は、「第IV編第7章W架設支保工」により別途計上する。 6. 支承工は、金属支承の場合は「第IV編第7章③鋼橋架設工」、道路橋示方書でいうゴム支承 6. 支承工は、金属支承の場合は「第IV編第7章③鋼橋架設工」、道路橋示方書でいうゴム支承 (タイプA) の場合は「第IV編第7章⑨PC橋架設工」により別途計上する。 (タイプA) の場合は「第IV編第7章 (PC橋架設工」により別途計上する。 ゴム支承 (タイプB) の場合は、「第IV編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋 ゴム支承 (タイプB) の場合は、「第IV編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋 工」により別途計上する。 エ」により別途計上する。 IV-7-12-2 IV-7-12-2 ② 760 ② 760

ĺΗ 第IV編第7章 ⑬RC場所打ホロースラブ橋工 3. 施工步掛 3. 施工步掛 $IV-7-\widehat{13}-2$ 3-1 コンクリートエ 3-1 コンクリート工 (2769)3-1-1 機種の選定 3-1-1 機種の選定 機械・規格は、次表を標準とする。 機械・規格は、次表を標準とする。 表3.1 機種の選定 表3.1 機種の選定 機械名 規 格 単位 数量 摘要 機械名 規 格 単位 数量 摘 要 コンクリートポンプ車 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車 トラック架装・プーム式 圧送能力90~110m3/h 台 台 1 1 3-1-2 施工歩掛 3-1-2 施工歩掛 コンクリート10m3当りの型枠 (R付含む) の製作,設置・撤去,コンクリート打設,表面仕上,養 コンクリート10m3当りの型枠 (R付含む) の製作, 設置・撤去, コンクリート打設, 表面仕上, 養 生,円筒型枠設置の歩掛は,次表を標準とする。 生,円筒型枠設置の歩掛は、次表を標準とする。 表3.2 コンクリート工歩掛 (コンクリート10m3当り) 表3.2 コンクリート工歩掛 (コンクリート10m3当り) 単位 摘 要 単位 名 称 数量 名 称 規 格 数量 摘 要 土木一般世話役 土木一般世話役 人 1.0 人 1.01 わく 11 5.1 わく # 5.1 0.2 0.2 特殊 作業員 0.8 特殊 作業員 0.89 普 通 作 業 員 5.0 普 通 作 業 員 H 5.08 m³ m³ 生コンクリート 10.2 (注) 1 生コンクリート 10.2 (注) 1 コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h コンクリートポンプ車運転 トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m³/h h 0.5 h 0.56 % (12)% 諸 雑 費 (注) 4, 5 諸 雑 費 (注) 4, 5 (注) 1. 生コンクリートのロス率は、+0.02とし上表に含まれている。 (注) 1. 生コンクリートのロス率は、+0.02とし上表に含まれている。 2. 円筒型枠の材料費は, 別途計上する。 2. 円筒型枠の材料費は, 別途計上する。 3. コンクリートの1日当り打設量は、160m3を標準とする。 3. コンクリートの1日当り打設量は、144m3を標準とする。 4. 諸雑費は、型枠用資材 (円筒型枠を除く), コンクリート養生材, フォームタイ, Pコン, 鋸 4. 諸雑費は、型枠用資材 (円筒型枠を除く), コンクリート養生材, フォームタイ, Pコン, 鋸 損料、ドリル損料、コンクリートバイブレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及 損料、ドリル損料、コンクリートバイブレータ損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及 び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上 び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上 する。 する。 5. 養生は,養生材の被覆,散水養生,被膜養生程度のものであり,給熱養生等の特別な養生を必 5. 養生は,養生材の被覆,散水養生,被膜養生程度のものであり,給熱養生等の特別な養生を必 要とする場合の諸雑費率は, () 内の値とし, 養生費を別途計上する。 要とする場合の諸雑費率は, () 内の値とし, 養生費を別途計上する。 6. 架設支保工は、「第IV編第7章@架設支保工」による。 6. 架設支保工は、「第IV編第7章@架設支保工」による。 7. 支承工は、金属支承の場合、「第Ⅳ編第7章③鋼橋架設工」、道路橋示方書でいうゴム支承 7. 支承工は、金属支承の場合、「第Ⅳ編第7章③鋼橋架設工」、道路橋示方書でいうゴム支承 (タイプA) の場合, 「第IV編第7章⑨PC橋架設工」により別途計上する。ゴム支承 (タイプ (タイプA) の場合, 「第IV編第7章⑨PC橋架設工」により別途計上する。ゴム支承 (タイプ B) の場合, 「第IV編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋工」により別途計上す B) の場合, 「第IV編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋工」により別途計上す 8. 葬橋防止装置取付工は、「第Ⅳ編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋工」により 8. 落橋防止装置取付工は、「第Ⅳ編第7章⑪ポストテンション場所打ホロースラブ橋工」により 別途計上する。 別途計上する。 3-2 鉄筋工 3-2 鉄筋工 鉄筋工は、「第VI編第2章市場単価①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 鉄筋工は、「第VI編第2章市場単価①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 IV-7-13-2 2 769 IV-7-13-2 2 769

上/\二, 一,	(令和 3 年 4 月 1 日一部改正 <i>)</i>								
頁	新	旧							
第IV編第 7 章									
・・・ ・ ・ ・ ・ ・	3-1-3 T形橋脚歩掛 T形橋脚における施工歩掛は、次表を標準とする。	3-1-3 T形橋脚歩掛 T形橋脚における施工歩掛は、次表を標準とする。							
(2813)									
	表3.2 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ5m以上10m未満の場合) (コンクリート10m ³ 当り)	表3.2 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ5m以上10m未満の場合) (コンクリート10m ⁸ 当り)							
	コンクリート打設量 (m³/基)	コンクリート打設量 (m³/基) 100m³以上 300m³以上 500m³未演 単位 100m³ 100m							
	土 木 一 般 世 話 役 人 0.6 (0.5) 0.5 (0.4)	土 木 一 般 世 話 役 人 0.61(0.51) 0.51(0.41)							
	特殊作業員"0.2(0.2)	特殊作業員 " 0.22 (0.22)							
	型 わ く エ " 1.8 (1.8) 1.3 (1.3)	型 わ く エ " 1.8 (1.8) 1.3 (1.3)							
	と び エ " 0.6 (0.2) 0.5 (0.2)	と び エ " 0.6 (0.2) 0.5 (0.2)							
	普通作業員"1.6(1.4) 1.3(1.1)	普通作業員 " 1.62 (1.42) 1.32 (1.12)							
	$2 \times 7 \times 10^{-10}$ m ³ 10.2 (10.2)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$							
	20 31 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	20 2 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1							
	コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)							
	雑 基 磯 材 敷 設 転 圧 % 2 (3) 2 (2)	雑							
	在 均しコンクリート打設 " 4(5) 5(6)	種 均しコンクリート打設 " 4(5) 5(6)							
	諸 雑 費 率 " 26 (12) 27 (15)								
	表3.3 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ10m以上15m未満の場合) (コンクリート10m ⁸ 当り)	表3.3 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ10m以上15m未満の場合) (コンクリート10m ² 当り)							
	コンクリート打設量(m³/基)	コンクリート打設量(m³/基) 名 称 単位 120m³以上 220m³以上 440m³以上 650m³未満 650m³未満							
	土 木 一 般 世 話 役 人 0.7 (0.6) 0.6 (0.5) 0.4 (0.3)	土木一般世話役人 0.71 (0.61) 0.61 (0.51) 0.41 (0.31)							
		特殊作業員 " 0.22 (0.22)							
	型	型 わ く エ " 2.0 (2.0) 1.5 (1.5) 1.0 (1.0)							
	と び エ " 0.9 (0.4) 0.7 (0.3) 0.6 (0.2)	と U エ n 0.9 (0.4) 0.7 (0.3) 0.6 (0.2)							
	普通作業員 "1.9(1.6) 1.4(1.2) 1.1(0.9)	普通作業員 1.92 (1.62) 1.42 (1.22) 1.12 (0.92)							
	コ ン ク リ ー ト m³ 10.2 (10.2)	コ ン ク リ ー ト m ³ 10.2 (10.2)							
	コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)							
	雄 基 礎 材 敷 散 転 圧 % 2(2) 2(2) 2(3)	雑 基 礎 材 敷 散 転 圧 % 2(2) 2(2) 2(3)							
	種 均しコンクリート打設 " 3(4) 4(5) 5(6)	種 均しコンクリート打設 " 3(4) 4(5) 5(6)							
	諸 雑 費 率 " 26 (12) 28 (13) 33 (15)	諸 雑 費 率 " 26 (12) 28 (13) 33 (15)							
	表3.4 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ15m以上25m未満の場合) (コンクリート10m ⁸ 当り)	表3.4 T形橋脚施工歩掛(構造物高さ15m以上25m未満の場合) (コンクリート10m ³ 当り)							
	- 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	ランクリー 1 (rong / 1, 2 / hr)							
		290m ³ 以上 名称 単位 910m ³ 未満 980m ³ 未満							
	71 107 POLICE								
	197 Section 20 Section								
	型 わ く エ " 1.5 (1.5) 1.3 (1.3)	型 わ く エ " 1.5 (1.5) 1.3 (1.3)							
	と び エ " 0.8 (0.3) 0.9 (0.5)	E US I II 0.8 (0.3) 0.9 (0.5)							
	普通作業員"1.6(1.3) 1.3(1.1)	普通作業員 " 1.62 (1.32) 1.32 (1.12)							
	コンクリート m³ 10.2 (10.2)	コンクリート m³ 10.2 (10.2)							
	コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)							
	雄 基 礎 材 敷 設 転 圧 % 1(1) 1(2)	雑 基 礎 材 敷 設 転 圧 % 1 (1) 1 (2)							
	種 均しコンクリート打設 " 2(3) 3(3)	種 均しコンクリート打設 " 2(3) 3(3)							
	諸 雑 費 率 " 29 (13) 28 (13)	諸 雑 費 率 " 29 (13) 28 (13)							
	IV−7−®−4 ② 813	Ⅳ-7-⑩-4 ② 813							

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

上个工事标毕恨异垄毕	· · · · · ·			新									[E		
第IV編第7章 ・ 個番台・橋脚工 ・ 橋脚工(1) (構造物単位) IV-7-19-5 (2814)	(注) 1. 上表の労務歩掛は、型枠(R付,支承・箱抜き部の型枠含む)製作・設置・撤去、足場(支保)設置・撤去、コンクリート打設・養生等を含むものである。 ただし、支承・箱抜き部の型枠の材料費は、別途計上する。 2. 本歩掛は、基礎形式(直接基礎、杭基礎)にかかわらず適用出来る。 3. コンクリートの材料ロス率は、+0.02として上表に含まれている。 4. 練工種・精練費は、労務費と機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 なお、維工種及び諸維費に含まれる内容は、付表-1のとおりである。 5. 養生は「養生材の被獲、散水養生、被覆養生程度のものであり、給熟養生等の特別な養生が必要な場合は、上表訓練費率より、2.0%を減ずるものとし、養生費を「第1種第4章①コンクリートエ」により別途計上する。 6. 冬期の施工で雪寒仮囲い等の特別な足場や、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、()内の敷値を使用するものとし、足場費及び養生費が必要な場合は「第1種第5章億-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。 7. 基礎材の敷均し厚は、20㎝までを標準としており、これにより難い場合は別途計上する。 8. コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧圧管組立・撤去が必要な場合は、「第1種第4章①コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧近管組立・撤去が必要な場合は、「第1種第4章①コンクリートエ」により、別途計上するものとする。なお、コンクリートエ」により、別途計上するものとする。なお、コンクリートボンブ車打設時のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 10. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤及びケレン作業を含む。									保	とよっ作しなを受りを、象をっなない。 となっ作しなを受りを、象をっないないできるは、ないないないのりついたが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、では、大きないないが、できないないないが、できないないないが、できないないないでは、大きないないないでは、大きないないないでは、大きないないないないできない。	法, コンクリート 利 基 本・籍抜き 主、籍抜き 直 本 選 本 選 本 選 本 選 本 選 本 選 本 選 本 選	辞別な足場や, 給熱養 し, 足場費及び養生費	である。 でする。 っず適用出来る。 まれている。 か合計額に上表の率を見 のとおりである。 のであり,給熱養生な とし,養生費を,「第」 生等の特別な養生を必 が必要な場合は「第」 れにより難い場合は「第」 れにより難い場合はが で組立・撤去が必要な する。 でもの、	乗じた金額を上限 等の特別な養生が I 編第4章①コン 要とする場合は、 I 編第5章②-2 別途計上する。 A 場合は、「第Ⅱ編
		10. 本少街(二)								10. 4	予少掛には	2000			
		項目	分務費	工種及び諸雑費に含まる 機械運転経費	れる内容 雑機械器具損料	材料費	1			項目	1	付表-1 雑 労務費	工種及び諸雑費に含ま 機 械運転経費	れる内容 雑機械器具損料	材料費
	熱		敷設・転圧労務	材料投入敷均し機械締固め機械	—	砕石材料			雑	000 D00	hand on	敷設・転圧労務	材料投入敷均し機械締固め機械	——————————————————————————————————————	砕石材料
	和	均しコンクリート関係	打設・養生・型枠製作・設置・ 撤去労務	打設機械電力に関する経費	コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ, バケット等	コンクリート, 養生材 均し型枠材料等	1		1 種	均しコンク	リート関係	打設・養生・ 型枠製作・設置・ 撤去労務	打設機械電力に関する経費	コンクリートパイブレータ, 工事用水中モータポンプ, バケット等	コンクリート, 養生材 均し型枠材料等
		コンクリート関係	_	電力に関する経費	コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ等					コンクリ	ート関係	_	電力に関する経費	コンクリートパイプレータ, 工事用水中モータポンプ等	養生マット等
	記録	空 作 阅 徐	_	持上げ (下げ) 機械 電力に関する経費	電気ドリル, 電気ノコギリ, 雑工具等	型枠材料、 組立支持材, はく離剤等			諸雑	型枠	関 係	_	持上げ (下げ) 機械 電力に関する経費	電気ドリル, 電気ノコギリ, 雑工具等	型枠材料、 組立支持材、 はく雕剤等
	費	~ *** ***	_	持上げ (下げ) 機械	雑工具等	足場工仮設材, 安全ネット等			費	足 場	15.00	_	持上げ (下げ) 機械	难工具等	足場工仮設材, 安全ネット等
	L	支 保 関 係	-	持上げ (下げ) 機械	п	支保工仮設材, 安全ネット等]			支 保	関 係	_	持上げ (下げ) 機械	n	支保工仮設材, 安全ネット等
	② 814			IV-7	19220	n m 200e		0	814				IV-7		

十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 旧 第IV編第7章 ⑩橋台・橋脚工 ⑩-1橋台・橋脚工(1) (構造物単位) 3-1-4 壁式橋脚歩掛 3-1-4 壁式橋脚歩掛 IV-7-(19)-6 壁式橋脚における施工歩掛は、次表を標準とする。 壁式橋脚における施工歩掛は、次表を標準とする。 (2815)表3.5 壁式橋脚施工歩掛(構造物高さ5m以上15m未満の場合) 表3.5 壁式橋脚施工歩掛(構造物高さ5m以上15m未満の場合) (コンクリート10m3当り) (コンクリート10m⁸当り) コンクリート打設量 (m3/基) コンクリート打設量 (m3/基) 名 称 単位 単位 0.51 (0.41) 土木一般世話役 0.6(0.5)0.5 (0.4) 土木一般世話役 0.61 (0.51) 人 人 殊 作 業 員 11 殊 作 業 員 11 0.22(0.22)0.2(0.2)I 1.8 (1.8) 1.4 (1.4) 型 わ I. 1.8 (1.8) 1.4 (1.4) 0.3 (-) 1 78 I 0.5 (-) TR T. 0.5 (-) 0.3 (-) 通 作 業 員 1.6 (1.3) 1.2 (1.1) 普 通 作 業 具 1.62 (1.32) 1.22 (1.12) 10.2 (10.2) m^3 10.2 (10.2) m³ IJ IJ 0.07 (0.07) コンクリートポンプ車運転 コンクリートポンプ車運転 H H 0.06 (0.06) 雑 基礎材敷設転圧 % 2 (3) 3 (3) 基礎材敷設転圧 % 2 (3) 3 (3) 種 種 均しコンクリート打設 4 (5) 7 (8) 均しコンクリート打設 4 (5) 7 (8) 諸 費 率 11 29 (12) 24 (15) 諸 費 率 11 29 (12) 24 (15) 表3.6 壁式橋脚施工歩掛(構造物高さ15m以上20m未満の場合) (コンクリート10m3当り) 表3.6 壁式橋脚施工歩掛(構造物高さ15m以上20m未満の場合) (コンクリート10m3当り) コンクリート打設量 (m3/基) 520m³以上 700m³未満 250m³以上 520m³未満 単位 名 称 土木一般世話役 0.5 (0.4) 0.4(0.3)X 殊 作 業 11 0.2 (0.2) 型 b I " 1.6 (1.6) 1.1 (1.1) CK T. 11 0.4 (-) 0.3 (-) 通 業 員 作 1.5 (1.3) 1.0 (0.9) ンク IJ m^3 10.2 (10.2) コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06) 基礎材敷設転圧 % 1 (1) 1 (2) 均しコンクリート打設 11 7 (8) 8 (10)

(注) 1. 上表の労務歩掛は、型枠(R付、支承・箱抜き部の型枠含む)製作・設置・撤去、足場(支保)設置・撤去、コンクリート打設・養生等を含むものである。

27 (14)

11

遬

謝

雑

- は、大文本・箱抜き部の型枠の材料費は、別途計上する。 ただし、支承・箱抜き部の型枠の材料費は、別途計上する。 本歩掛は、基礎形式(直接基礎、抗基礎)にかかわらず適用出来る。 コンクリートの材料ロス率は、+0.02として上表に含まれている。 雑工種・諸雑費は、労務費と機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として
- 4. 雑工種・諸維費は、労務費と機械損料及び運転給費の市田和に上級のである。
 計上する。
 なお、雑工種及び諸維費に含まれる内容は、付表-1のとおりである。
 5. 養生は、養生材の被穫、散水養生、被穫養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生が必要な場合は、上表諸維費率より、2.0%を減ずるものとし、養生費を、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
 6. 冬期の施工で雪寒仮開い等の特別な足場や、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、()内の数値を使用するものとし、足場費及び養生費が必要な場合は「第Ⅱ編第5章⑬-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。
 7. 基礎材の敷均し厚は、20㎝までを標準としており、これにより難い場合は別途計上する。
 8. コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章⑪コンクリートボンプ車配管打設で施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章⑪コンクリートエ」により、別途計上するものとする。
 なお、コンクリート1日当り打設量は、110㎡を標準とする。
 9. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打設時のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。
 10. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤及びケレン作業を含む。

IV-7-19-6 ② 815

33 (16)

コンクリート打設量 (m3/基)				<u>(</u>)	250m3以上	520m ³ 以上 700m ³ 未満
	名	称		単位	250m ³ 以上 520m ³ 未満	700m³未満
土	木 一 彩	世 話	役	人	0.51 (0.41)	0.41 (0.31)
特	殊 作	業	員	"	0.22 (0.22)
型	b	<	エ	n	1.6 (1.6)	1.1 (1.1)
٤	U	\$	I	11	0.4 (-)	0.3 (-)
普	通 作	業	員	n	1.52 (1.32)	1.02 (0.92)
7	ンク	у —	١	m ³	10.2 (10.2)
コン	クリート	ポンプ車	運転	H	0.07 ((0.07)
雑工種	基礎材	敷散板	圧	%	1 (1)	1 (2)
種	均しコン	クリート	打設	n	7 (8)	8 (10)
諸	雑	費	率	n	27 (14)	33 (16)

- (注) 1. 上表の労務歩掛は、型枠(R付、支承・箱抜き部の型枠含む)製作・設置・撤去、足場(支保)設置・撤去、コンクリート打設・養生等を含むものである。
 ただし、支承・箱抜き部の型枠の材料費は、別途計上する。
 2. 本歩掛は、基礎形式(直接基礎、杭基礎)にかからず適用出来る。
 3. コンクリートの材料ロス率は、+0.02として上表に含まれている。
 4. 雑工和・諸雑費は、労務費と機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として
 またまる。

- 4. 維工種・諸維費は、労務費と機械損料及び運転経費の台間では、上水の中を示した。 計上する。 かお、雑工種及び諸維費に含まれる内容は、付表-1のとおりである。 5. 養生は、養生材の被穫、散水養生、被穫養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生が必要な場合は、上表諸維費率より、2.0%を減ずるものとし、養生費を、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 6. 冬期の施工で雪寒仮囲い等の特別な足場や、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、()内の数値を使用するものとし、足場費及び養生費が必要な場合は「第Ⅱ編第5章③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。 7. 基礎材の敷均し厚は、20cmまでを標準としており、これにより難い場合は別途計上する。 8. コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリートエ」により、別途計上するものとする。 なお、コンクリートトコとより、別途計上するものとする。 なお、コンクリートトコ当り打設量は、9回でを標準とする。 9. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打設時のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 10. 本歩掛には、型枠施工時のはく離利及びケレン作業を含む。

IV-7-19-6 ② 815

工作工事		
頁	新	旧
第Ⅳ編第7章		
⑨橋台・橋脚工		
⑩-1橋台・橋脚工(1)		
(構造物単位)	3-1-5 逆工式橋台歩掛	3-1-5 逆丁式橋台歩掛
IV-7-19-8	逆T式橋台における施工歩掛は,次表を標準とする。	逆工式橋台における施工歩掛は、次表を標準とする。
(2817)		10.00 to 30 to 40.00 to 50.00
	表3. 7 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ5m未満, 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)	表3.7 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ5m未満, 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)
	コンクリート打設量 (m³/基) 50m³以上 140m³以上 140m³未満 260m³未満	コンクリート打設量 (m³/基) 50m³以上 140m³以上 260m³未満 260m³未満
	4F 49F	4 初 辛吐
	土 木 一 般 世 話 役 人 0.6 (0.5) 0.5 (0.4)	土 木 一 般 世 話 役 人 0.61 (0.51) 0.51 (0.41)
	特殊作業員" 0.2 (0.2)	特殊作業員" 0.22 (0.22)
	型	型 わ 〈 工 " 2.2 (2.2) 1.7 (1.7)
	と び エ " 0.5 (0.1) 0.3 (0.1) 普 通 作 業 員 " 1.9 (1.6) 1.5 (1.3)	と び エ " 0.5 (0.1) 0.3 (0.1) 普通作業員" 1.92 (1.62) 1.52 (1.32)
	普通作業員" 1.9 (1.6) 1.5 (1.3) コンクリート m³ 10.2 (10.2)	普通作業員 " 1.92 (1.62) 1.52 (1.32) コンクリート m³ 10.2 (10.2)
	コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)
	雑 基礎 材 敷 設 転 圧 % 4 (4) 4 (5)	維 基 礎 材 敷 設 転 圧 % 4 (4) 4 (5)
	1 対しコンクリート打設 " 7(8) 8(9)	1 対しコンクリート打設 " 7(8) 8(9)
	諸 雑 費 率 " 25 (14) 26 (14)	諸 雑 費 率 " 25 (14) 26 (14)
	表3.8 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ5m以上7m未満, 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)	表3.8 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ5m以上7m未満, 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)
	コンクリート打設量 (m³/基) 50m³以上 90m³以上 160m³以上 160m³以上 310m³未満 310m³未満	コンクリート打設量 (m³/基) 50m³以上 90m³以上 160m³以上 310m°未満 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°未素 310m°
	41 10 410.	和 457
	土 木 一 般 世 話 役 人 1.0 (0.8) 0.7 (0.6) 0.6 (0.5)	土 木 一 般 世 話 役 人 1.01 (0.81) 0.71 (0.61) 0.61 (0.51)
	特殊作業員" 0.2 (0.2)	特殊作業員 " 0.22 (0.22)
	型 わ く エ " 3.3 (3.3) 2.6 (2.6) 2.0 (2.0)	型 わ く エ " 3.3 (3.3) 2.6 (2.6) 2.0 (2.0)
	と び 工 " 0.8 (0.1) 0.6 (0.1) 0.4 (0.1) 普 通 作 業 員 " 2.7 (2.3) 2.2 (1.9) 1.7 (1.5)	と び 工 " 0.8 (0.1) 0.6 (0.1) 0.4 (0.1) 普通作業員" 2.72 (2.32) 2.22 (1.92) 1.72 (1.52)
	普通作業員 " 2.7 (2.3) 2.2 (1.9) 1.7 (1.5) コンクリート m ³ 10.2 (10.2)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
	コンクリートポンプ車運転 目 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)
	雑 基 礎 材 敷 設 転 圧 % 1(2) 2(2) 2(3)	維 基 礎 材 敷 設 転 圧 % 1(2) 2(2) 2(3)
	五種 均しコンクリート打設 " 5(6) 5(6) 6(7)	1 類 切しコンクリート打散 # 5(6) 5(6) 6(7)
	諸 雑 費 率 " 19 (9) 20 (11) 21 (11)	諸 雑 費 率 " 19 (9) 20 (11) 21 (11)
	表3.9 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ7m以上9m未満, 翼壁厚0.4m以上0.8m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)	表3.9 道丁式操台施工先掛(横浩物高さ7m以上9m未造 電壁原0.4m以上0.6m以下の場合)
		表3.9 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ7m以上9m未満. 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m³当り) コンクリート打設量 (m³/基) 70m3以上 110m3以上 910m3以上
	Tom ³ 以上	Tom ³ 以上 110m ³ 以上 210m ³ 以上 310m ³ 未満 単位 110m ³ 未満 210m ³ +未満 210m ³ ++未満 210m ³ +++未満 210m ³ ++++++++++++++++++++++++++++++++++++
	土 木 一 般 世 話 役 人 1.0 (0.8) 0.7 (0.6) 0.6 (0.5)	土 木 一 般 世 話 役 人 1.01 (0.81) 0.71 (0.61) 0.61 (0.51)
	特殊作業員 " 0.2 (0.2)	特殊作業員 " 0.22 (0.22)
	型 わ く エ " 2.6 (2.6) 2.3 (2.3) 1.8 (1.8)	型 わ く エ " 2.6 (2.6) 2.3 (2.3) 1.8 (1.8)
	と び エ " 1.3 (0.6) 0.8 (0.3) 0.5 (0.1)	と び エ " 1.3 (0.6) 0.8 (0.3) 0.5 (0.1)
	普 通 作 業 員 " 2.5 (2.1) 2.0 (1.7) 1.6 (1.4)	普通作業員 "2.52(2.12) 2.02(1.72) 1.62(1.42)
	コ ン ク リ ー ト m ⁸ 10.2 (10.2)	コ ン ク リ ー ト m ⁸ 10.2 (10.2)
	コンクリートポンプ車運転 日 0.06 (0.06)	コンクリートポンプ車運転 日 0.07(0.07)
	雑 基礎材敷設転圧 % 1(2) 2(2) 3(3)	雑 基 礎 材 敷 散 転 圧 % 1(2) 2(2) 3(3)
	稲 均しコンクリート打設 " 3(4) 5(5) 7(8)	種 均しコンクリート打散
	諸 雑 費 率 " 27 (11) 27 (14) 29 (15)	諸 雑 費 率 " 27 (11) 27 (14) 29 (15)
	IV−7−®−8 ② 817	IV−7−®−8 ② 817

工作工事你平假并 丛 中		I		T
頁		新		III
tata - too tata - da				
第IV編第7章				
⑩橋台・橋脚工				
⑲-1橋台・橋脚工(1)				
(構造物単位)			100 W=0#A\	
IV-7-19-9	表3.10 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ9ml	以上10m未满,真壁厚0.4m以	上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)	表3. 10 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ9m以上10m未満, 翼壁厚0.4m以上0.6m以下の場合) (コンクリート10m ³ 当り)
(2)818)	コンクリート打設量 (m³/基)	130m ⁸ 以上	280m³以上	- 1.7 II. I Tribe (-3.7 II)
, ,	名 称 単位	130m ³ 以上 280m ³ 未満	280m ³ 以上 310m ³ 未满	130m ³ 以上 280m ³ 以上 310m ³ 未満 単位 280m ³ 以上 310m ³ 未満
	土 木 一 般 世 話 役 人	0.6 (0.5)	0.6 (0.5)	土 木 一 般 世 話 役 人 0.61 (0.51) 0.61 (0.51)
	特殊作業員"	0.2 ((0. 2)	特殊作業員" 0.22 (0.22)
	型 わ く エ "	2.4 (2.4)	1.8 (1.8)	型 わ く エ " 2.4 (2.4) 1.8 (1.8)
	ك	0.7 (0.2)	0.5 (0.1)	と び エ " 0.7 (0.2) 0.5 (0.1)
	普通作業員"	2.1 (1.8)	1.6 (1.4)	普 通 作 業 員 " 2.12 (1.82) 1.62 (1.42)
	コンクリート m³	10.2		コンクリート m³ 10.2 (10.2)
	コンクリートポンプ車運転 日	0.06		コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)
	雜 基礎 材敷 散 転 圧 %	1 (2)	2 (2)	雜 基礎 材敷 散 転 圧 % 1(2) 2(2)
	工	5 (6)	5 (6)	工 植 均しコンクリート打設 n 5(6) 5(6)
	諸 雑 費 率 "	26 (12)	30 (15)	諸 雑 費 率 " 26 (12) 30 (15)
		20 (12)	00 (10)	III 71 X T 20 (22)
	表3 11 逆T式機分施工歩掛(機造物高さ10m)	以上11m未満 電器厚0.4m以	F0.6m以下の場合)	表3、11 - 逆T式機会施工歩掛(機造物高さ10m以上11m未満 電壁厚0.4m以上0.6m以下の場合)
	表3.11 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ10m)	X	(コングリート10m³当り)	
	コンクリート打設量 (m³/基)	230m ³ 以上 370m ³ 未満	370m ³ 以上 650m ³ 未満	コンクリート打設量 (m ³ /基) 230m ³ 以上 370m ³ 以上 650m ³ 未満
	名 称 単位 \	370m-水闸		71 471 4411.
	土木一般世話役人	0.6 (0.5)	0.5 (0.4)	土 木 一 般 世 話 役 人 0.61 (0.51) 0.51 (0.41)
	特殊作業員"	0.2 (特殊作業員" 0.22 (0.22)
	型 わ く エ "	2.2 (2.2)	1.6 (1.6)	型 わ く エ " 2.2 (2.2) 1.6 (1.6)
	と び エ "	0.7 (0.1)	0.5 (0.1)	と ぴ エ " 0.7 (0.1) 0.5 (0.1)
	普通作業員"	1.9 (1.6)	1.5 (1.3)	普通作業員 1.92 (1.62) 1.52 (1.32)
	コン ク リ ー ト m³	10.2	(10.2)	コンクリート m³ 10.2 (10.2)
	コンクリートポンプ車運転 日	0.06	(0. 06)	コンクリートポンプ車運転 目 0.07 (0.07)
	雑 基礎材敷設転圧 %	1 (2)	2 (3)	
	■ 歯 □ 均しコンクリート打設 "	4 (4)	5 (6)	種 均しコンクリート打設 " 4(4) 5(6)
	諸 雑 費 率 "	28 (13)	27 (13)	諸 雜 費 率 " 28 (13) 27 (13)
	表3 12 道T式操台施工卡琳/横浩伽真之11m	は F12m 表満 電器原0.4m以	F0.8m以下の場合)	表3 12 逆工术场台施工振掛(増资施高之11m以 F12m去诺 智駐原0.4m以 F0.6m以下の場合)
	表3.12 逆T式橋台施工歩掛(構造物高さ11m!			
	コンクリート打設量 (m³/基)	230m ³ 以上 320m 320m ³ 未満 560m	n ⁸ 以上 560m ⁸ 以上 650m ³ 未満	コンクリート打設量(m³/基) 230m³以上 320m³以上 560m³以上 560m³以上 560m³未満 650m³未満
	名称単位	320㎡本個 560㎡	0-7-4M 600 m-7-4M	
	土木一般世話役人	0.7 (0.6) 0.6	The same of the sa	
	特殊作業員"	0. 2		特殊作業員" 0.22 (0.22)
	型 わ く エ "	2.4 (2.4) 1.8	(1.8) 1.3 (1.3)	型 わ く エ " 2.4 (2.4) 1.8 (1.8) 1.3 (1.3)
	と び エ "	0.8 (0.2) 0.5	(0.1) 0.3 (0.1)	
	普通作業員"	2.1 (1.8) 1.7	and the same	
	コ ン ク リ ー ト m³	10.2	(10.2)	y - y - y - y - y - y - y - y - y - y -
	コンクリートポンプ車運転 日	0.06		コンクリートポンプ車運転 日 0.07 (0.07)
	雑 基礎材敷設転圧 %		(3) 3 (3)	March Mar
	種 切しコンクリート打設 "	4 (4) 3 ((4) 3 (3)	種 均しコンクリート打設 " 4(4) 3(4) 3(3)
	諸 雑 費 率 "	28 (13) 27	(12) 29 (15)	
	② 818 IV-7	-19-9		② 818 IV-7-⑩-9
	11 /	~ ~		

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第IV編第7章 ⑩橋台・橋脚工 ⑩-1橋台・橋脚工(1) (構造物単位) (注) 1. 上表の労務歩掛は、型枠(R付、支承・箱抜き部の型枠含む)製作・設置・撤去、足場(支 (注) 1. 上表の労務歩掛は,型枠(R付,支承・箱抜き部の型枠含む)製作・設置・撤去,足場(支 $IV-7-\widehat{19}-10$ 保) 設置・撤去, コンクリート打設・養生等を含むものである。 保) 設置・撤去、コンクリート打設・養生等を含むものである。 (2)819ただし, 支承・箱抜き部の型枠の材料費は, 別途計上する。 ただし, 支承・箱抜き部の型枠の材料費は, 別途計上する。 2. 本歩掛は,基礎形式(直接基礎,杭基礎)にかかわらず適用出来る。 2. 本歩掛は, 基礎形式 (直接基礎, 杭基礎) にかかわらず適用出来る。 3. コンクリートの材料ロス率は、+0.02として上表に含まれている。 3. コンクリートの材料ロス率は、+0.02として上表に含まれている。 4. 雑工種・諸雑費は、労務費と機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 4. 雑工種・諸雑費は、労務費と機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限 として計上する。 として計上する。 なお、雑工種及び諸雑費に含まれる内容は、付表-1のとおりである。 なお, 雑工種及び諸雑費に含まれる内容は, 付表-1のとおりである。 5. 養生は,養生材の被覆,散水養生,被覆養生程度のものであり,給熱養生等の特別な養生が 5. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生が 必要な場合は、上表諸雑費率より、2.0%を減ずるものとし、養生費を、「第Ⅱ編第4章①コン 必要な場合は、上表諸雑費率より、2.0%を減ずるものとし、養生費を、「第Ⅱ編第4章①コン クリート工」により別途計上する。 クリートエ」により別途計上する。 6. 冬期の施工で雪寒仮囲い等の特別な足場や、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、 6. 冬期の施工で雪寒仮囲い等の特別な足場や、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合は、 ()内の数値を使用するものとし、足場費及び養生費が必要な場合は「第Ⅱ編第5章⑬-2 () 内の数値を使用するものとし、足場費及び養生費が必要な場合は「第Ⅱ編第5章⑬-2 雪寒仮囲い工」により別途計上する。 雪寒仮囲い工」により別途計上する。 7. 基礎材の敷均し厚は、20cmまでを標準としており、これにより難い場合は別途計上する。 7. 基礎材の敷均し厚は、20cmまでを標準としており、これにより難い場合は別途計上する。 8. コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第 II 8. コンクリートポンプ車配管打設で施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場合は、「第Ⅱ 編第4章①コンクリート工」により、別途計上するものとする。 編第4章①コンクリート工」により、別途計上するものとする。 なお、コンクリート1日当り打設量は、110㎡を標準とする。 なお、コンクリート1日当り打設量は、99㎡を標準とする。 9. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打設時のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含 9. 本歩掛には、コンクリートポンプ車打設時のホースの簡先作業等を行う機械付補助労務を含 10. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤及びケレン作業を含む。 10. 本歩掛には、型枠施工時のはく離剤及びケレン作業を含む。 11. 本歩掛は、水抜きパイプの設置の有無にかかわらず適用出来る。ただし材料費については別 11. 本歩掛は、水抜きパイプの設置の有無にかかわらず適用出来る。ただし材料費については別 途計上する。 途計上する。 付表-1 雑工種及び諸雑費に含まれる内容 付表-1 雑工種及び諸雑費に含まれる内容 機械運転経費 雑機械器具損料 機械運転経費 雑機械器具損料 労 務 費 材料費 労務費 材料費 項目 項目 材料投入敷均し機械 締固め機械 材料投入敷均し機械 締固め機械 基礎砕石 敷設・転圧労務 砕石材料 基礎砕石 敷設・転圧労務 砕石材料 T. T. コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータボンブ, バケット等 コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ, バケット等 打設・養生・ 型枠製作・設置・ 撤去労務 打設・養生・ 型枠製作・設置 撤去労務 コンクリート, コンクリート, 均しコンクリート 関 打設機械 電力に関する経費 均しコンクリート 傷 打設機械 電力に関する経費 種 養生材, 均し型枠材料等 種 養生材, 均し型枠材料等 コンクリートパイプレータ、 工事用水中モータポンプ等 コンクリートバイブレータ, 工事用水中モータポンプ等 コンクリート関 養生マット, 養生シート等 コンクリート関 養生マット, 養生シート等 電力に関する経費 電力に関する経費 電気ドリル, 電気ノコギリ, 雑工具等 電気ドリル, 電気ノコギリ, 雑工具等 型枠材料, 組立支持材, はく離剤等 型枠材料. 持上げ (下げ) 機械 電力に関する経費 持上げ (下げ) 機械 電力に関する経費 諸 諸 型枠関係 組立支持材がはく離剤等 型枠関係 雑 雑 足場工仮散材, 安全ネット 足場工仮設材, 安全ネット 足場関係 足場関係 持上げ (下げ) 機械 雑工具等 持上げ (下げ) 機械 雑工具等 支保工仮設材, 安全ネット 支保工仮設材, 安全ネット 支 保 関 係 _ 持上げ (下げ) 機械 支 保 関 係 _ 持上げ (下げ) 機械 3-2 鉄筋工 3-2 鉄笛工 鉄筋工は、「第VI編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 鉄筋工は、「第VI編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。

IV-7-19-10

② 819

IV-7-19-10

② 819

ĺΗ 第IV編第7章 ⑩橋台・橋脚工 ⑩-1橋台・橋脚工(1) (構造物単位) 4. 単 価 表 4. 単 価 表 $IV-7-\widehat{19}-11$ コード番号 S 6 3 0 0 コード番号 S 6 3 0 0 (1) T形橋脚10m⁸当り単価表 [橋台・橋脚工(1)] (1) T形橋脚10m3当り単価表 [橋台・橋脚工(1)] (2)820単位 数量 摘 要 数量 摘 要 名 称 名 称 規格 単位 土木一般世話役 人 表3.2~表3.4 土木一般世話役 人 表3.2~表3.4 特殊作業員 特殊作業員 11 11 型わくエ 11 11 型わく工 11 11 とび工 11 11 とびエ 11 11 普通作業員 普通作業員 11 11 11 11 コンクリート コンクリート 10.2 m^3 10.2 m^3 表3.2~表3.4 機械損料 表3.2~表3.4 機械損料 コンクリートポンプ車運転 日 コンクリートポンプ車運転 日 0.07 0.06 単価表(4) 必要に応じて計上 (注) 単価表(4) 必要に応じて計上 (注) 圧送管組立・撤去費 圧送管組立·撤去費 m^3 10 m^3 10 必要に応じて計上 必要に応じて計上 養生工(特殊養生) 式 養生工(特殊養生) 式 1 1 雑 基礎材敷設転圧 必要に応じて計上 雑 基礎材敷設転圧 11 11 1 必要に応じて計上 種 均しコンクリート打設 種 均しコンクリート打設 11 11 1 1 雑 費 表3.2~表3.4 諸 雑 表3.2~表3.4 1 1 計 計 (注) 1. 圧送管組立・撤去費,養生工(特殊養生)を計上した場合は諸雑費の対象とし (注) 1. 圧送管組立・撤去費,養生工(特殊養生)を計上した場合は諸雑費の対象とし 養生工(特殊養生)については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート エ5-3養生工(特殊養生)」、「第Ⅱ編第5章仮設工⑩-2雪寒仮囲いエ5.養 生工」によるものとする。 後生工(特殊養生)については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート エ5-3養生工(特殊養生)」、「第Ⅱ編第5章仮設工⑩-2雪寒仮囲いエ5.養 生工」によるものとする。 コード番号 86304 コード番号 S 6 3 0 4 (2) 壁式橋脚10m3当り単価表 [橋台・橋脚工(1)] (2) 壁式橋脚10m3当り単価表 [橋台・橋脚工(1)] 摘 要 名 称 単位 数量 名 称 単位 数量 摘 要 土木一般世話役 土木一般世話役 人 表3.5, 表3.6 人 表3.5, 表3.6 特殊作業員 11 特殊作業員 11 型わく工 型わく工 とび I. T. 11 # TK H 普通作業員 " # 普通作業員 11 コンクリート コンクリート m^3 m³ 10.2 10.2 表3.5. 表3.6 機械損料 表3.5. 表3.6 機械損料 コンクリートポンプ車運転 日 0.06 コンクリートポンプ車運転 日 0.07 単価表(4) 必要に応じて計上 (注) 単価表(4) 必要に応じて計上 (注) 圧送管組立・撤去費 m^3 10 圧送管組立・撤去費 m^3 必要に応じて計上 必要に応じて計上 養生工(特殊養生) 養生工(特殊養生) 式 土 1 1 雑 基礎材敷設転圧 雑 基礎材敷設転圧 必要に応じて計上 必要に応じて計上 11 1 種 均しコンクリート打設 種 均しコンクリート打設 " 11 11 1 11 諸 雑 11 表3.5, 表3.6 諸 雑 表3.5, 表3.6 1 1 (注) 1. 圧送管組立・撤去費,養生工(特殊養生)を計上した場合は諸雑費の対象と (注) 1. 圧送管組立・撤去費,養生工(特殊養生)を計上した場合は諸雑費の対象と 2. 養生工(特殊養生)については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリ 2. 養生工(特殊養生)については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリ ートエ5-3養生工(特殊養生)」,「第Ⅱ編第5章仮設工⑬-2雪寒仮囲い ートエ5-3養生工(特殊養生)」,「第Ⅱ編第5章仮設工⑬-2雪寒仮囲い 工5、養生工」によるものとする。 工5.養生工」によるものとする。 ② 820 IV-7-19-11 ② 820 IV-7-19-11

奔	旧
	IH IH
(3) 逆丁式略合10m ¹ % り単純素 (場合・機師工(1))	(3) 逆丁大路台10m ¹⁶ 39 単伝来 (場合・機解工(1))
IV-7-®-12 ② 821	IV−7−19−12 ② 821

十木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表 ĺΗ 第IV編第7章 19橋台・橋脚工 19-2橋台・橋脚工(2) (19-2 橋台·橋脚工(2) 19-2 橋台·橋脚工(2) $IV-7-\widehat{19}-13$ (2)8221. 滴 用 節 用 1. 適 用 範 囲 本資料は、「第IV編第7章橋梁工9-1橋台・橋脚工(1)」の適用範囲を外れた橋台・橋脚のコンクリート打 本資料は、「第IV編第7章橋梁工印-1橋台・橋脚工(1)」の適用範囲を外れた橋台・橋脚のコンクリート打 設に適用する。なお、適用可能な形式は、T形橋脚(円形及び小判型含む)、壁式橋脚(小判型含む)及び逆工式 製に適用する。なお、適用可能な形式は、T形橋脚(円形及び小判型含む)、壁式橋脚(小判型含む)及び逆T式 橋台とし、同一構造物で、コンクリート強度が異なる場合、フーチングのみ又は躯体のみの施工の場合は適用出来 橋台とし、同一構造物で、コンクリート強度が異なる場合、フーチングのみ又は躯体のみの施工の場合は適用出来 ない。適用を外れる橋台・橋脚については、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」等により別途計上する。 ない。適用を外れる橋台・橋脚については、「第II編第4章①コンクリート工」等により別途計上する。 2. 施工步掛 2. 施工步掛 2-1 橋台・橋脚コンクリート打設歩掛 2-1 橋台・橋脚コンクリート打設歩掛 橋台・橋脚工コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。 橋台・橋脚工コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。 表2.1 コンクリート打設歩掛 (人/10m3当り) 表2. 1 コンクリート打設歩掛 (人/10m3当り) コンクリート打設量 (㎡/基) コンクリート打設量 (㎡/基) 50m³以上 50m³以上 単位 名 称 名 称 単位 土 木 一 般 世 話 役 土 木 一 般 世 話 役 人 人 特 殊 作 業 特 殊 作 業 0.18 員 0.20 普 通 作 業 普 通 作 業員 0.27 0.24 コンクリートポンプ車運転 H コンクリートポンプ車運転 H 0.07 0.06 諸 雑 費 諸 姓 費 782 % 4 244 % 4 (注) 1. コンクリートポンプ車の機種については、「第IV編第7章(9-1橋台・橋脚工(1)」 (注) 1. コンクリートポンプ車の機種については、「第IV編第7章¹³-1橋台・橋脚工(1)」 表3.1による。 表3.1による。 2. コンクリートのロス率は、+0.02として上表に含めてある。 2. コンクリートのロス率は、+0.02として上表に含めてある。 3. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 3. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。 4. 諸雑費は、コンクリートバイプレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、 4. 諸雑費は、コンクリートバイプレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、 上表の労務費とコンクリートポンプ車運転費の合計額に上表の率を乗じた金額を 上表の労務費とコンクリートポンプ車運転費の合計額に上表の率を乗じた金額を 上限として計上する。 上限として計上する。 5. コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場 5. コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合で圧送管組立・撤去が必要な場 合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 なお、コンクリート1日当り打設量は、110㎡を標準とする。 なお、コンクリート1日当り打設量は、99㎡を標準とする。 6. 養生については、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 6. 養生については、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 2-2 型枠工 2-2 型枠工 型枠工は、「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。 型枠工は、「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。 2-3 鉄筋工 2-3 鉄筋工 鉄筋工は, 「第VI編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 鉄筋工は,「第VI編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 2-4 足場工 2-4 足場工 足場工は,「第Ⅱ編第5章⑦-1足場工」により別途計上する。 足場工は、「第Ⅱ編第5章⑦-1足場工」により別途計上する。 2-5 支保工 2-5 支保工 支保工は,「第Ⅱ編第5章⑦-2支保工」により別途計上する。 支保工は、「第Ⅱ編第5章⑦-2支保工」により別途計上する。

2-6 基礎材工

基礎材工は,「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工」により別途計上する。

2-7 均しコンクリートエ

均しコンクリート工は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

2-8 その他

基礎コンクリート工及び目地設置工等が必要な場合は、別途計上する。

2-6 基礎材工

基礎材工は、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工」により別途計上する。

2-7 均しコンクリートエ

均しコンクリート工は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

2-8 その他

基礎コンクリート工及び目地設置工等が必要な場合は、別途計上する。

② 822 IV-7-99-13

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

頁	新	旧
	(1) 橋台・橋脚エコンクリート打設 10m³当り単価表 (橋台・橋脚エ (2)) 名 称	日 日 日 日 日 日 日 日
	のとする。 (2) 圧送管組立・撤去費単価表 圧送管組立・撤去費単価表 圧送管組立・撤去費は、「橘台・橘脚工(1) 4. 単価表(4) 圧送管組立・撤去費単価表(橘台・橘脚 10 ㎡当り)」を適用する。 (3) 機械運転単価表 機械運転単価表 機械運転単価表は、「橘台・橘脚工(1) 4. 単価表(6) 機械運転単価表」を適用する。	のとする。 (2) 圧送管組立・撤去費単価表 圧送管組立・撤去費は、「橘台・橘脚工(1) 4. 単価表(4) 圧送管組立・撤去費単価表(橘台・橘脚 10 ㎡当り)」を適用する。 (3) 機械運転単価表 機械運転単価表は、「橘台・橘脚工(1) 4. 単価表(6) 機械運転単価表」を適用する。
	IV−7−®−14 ② 823	Ⅳ-7-⑩-14 ② 823

土木工事標準積算基準(令和3年4月1日一部改正)新旧対照表

百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百百	(17413 千4万1日 - 即以正)利田内無政 新	旧
只	<i>₹</i> ₹	IH
第Ⅷ編第6章 ③仮橋・仮桟橋工		
	(3) 仮橋, 仮桟橋工 1. 仮(株) 様 (原稿品を除く) 設置蘭丸工 (1) ブラケットにブードレールを贈て込む工法の締合は、溶積工、トラッククレーン、諸徳費率は計上しない。 (2) 仮(核) 構築材等 (2) (2) (2) (4) 横浜科等 (2) (3) (4) 横浜科等 (4) (4) 横浜科の海刺等の計上は、下影を標准とする。 (5) 財 老 部 材 名 質 重 遊 出 参信資料 (東投票科学院上の体理要及び傾斜要 大だし、北部、受你の 1 現場当たり 修理要及び傾斜要 大だし、上部、受你の 1 現場当たり 修理要及び傾斜要 工 6 、仮数 対容料に返る後定要及び領非要要の現扱いについて (こおける日野郷 (山原生部村)によるものとする。 (5) (4) (4) 「	(3) 仮模。仮検権工 1. 仮 (機) 様 (質製品を除く) 設置被去工 (1) プラケットにガードレールを確て込む工法の場合は、溶接工, トラッククレーン、認健要率は計上しな 3.5。 (2) 仮 (機) 検索特が 仮 (性) 権部別の指針等の計上は、下記を標準シナる。 新 材 点 野 材 る 質 重 出 物 の重算件 (仮設網対策実料金) 財 析 テ 受 様 上 げ ただし、主店、受折の 1 児場主たり後週費及び損耗費 生 部 財 析 テ 模 エ 成 整体数 (体)1 シナム、 原工版 財 析 チ 模 エ 成 を 所 成 成材の機料率 東 携 版付プレート
	③ 240 VII-6-③-1	③ 240 VII-6-③-1

	IH
791	IH
### (### 1997) (日本の本) (日	日本
③282 VII−12−①−2	③ 282 VII—12—①—2

頁	新	旧
第Ⅷ編第12章		
(リートンネルエ) (リートンネルエ)		
VII-12-①-3 (③283)	表4.6補 大型ブレーカ (ベースマシン含む) 「通常新面」 (週/(トンネル延長) 1m当たり) 短削方法 岩区分 50 55 60 65 70 75 80 85	表4. 4補 大型ブレーカ 振削方法 岩区分 50 55 60 65 70 75 80 85 85 85 85 85 85 8
	提削方法 岩区分	日本日 50 55 60 65 70 75 80 85 1
	表4.10補 雷管(2~5段)「通常断面」 振削方法 岩区分	表4.6補 雷管 (2~5段) 振削方法 岩区分 50 55 60 65 70 75 80 85 80 85 80 80 80 8
	表4.11補 書管(6~10段)「通常断面」 振削方法 岩区分	表4.7補 雷管 (6~10段) 製計掘削断面積 (余掘含まず) (m2) 製計掘削断面積 (余掘含まず) (m2) 大田 名 33.3 36.7 40.0 43.3 46.7 50.0 53.3 56.7 付金金 (日日 33.3 36.7 40.0 43.3 46.7 50.0 53.3 56.7 付金金 チ付き金 D I a 27.5 30.3 33.0 35.8 38.5 41.3 44.0 46.8 断面工法 D I b 27.5 30.3 33.0 35.8 38.5 41.3 44.0 46.8 D II 27.5 30.3 33.0 35.8 38.5 41.3 44.0 46.8
	表4.14補 (銀剛等) 諸雑費 (その他の機様) 「通常断面」 販計据削断面積 (余据含まず) (m2) ・	表4.8補 (掘削等) 諸雑費 (その他の機械) 掘削方法 岩区分 設計掘削断面積 (余据含まず) (m2) 掘削方法 こ 日本 7.0 8.0 8.0 9.0 9.0 9.0 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0
	表4.16補 (銀削等) 諸雑費 (その他材料) 「通常斯面」 (%/m当たり) 振削方法 岩区分	表4.9補(掘削等) 論雑費(その他材料) 掘削方法 岩区分 設計掘削断面積(余掘含まず)(m2) 1 50 55 60 65 70 75 80 85 1 0.0
	表4.18補 ホイールローダ「通常断面」 (週/(トンネル延長) 1m当たり) 振削方法 岩区分	表4. 10補 ホイールローダ (週/(トンネル延長) 1m当たり) 振削方法 岩区分 設計掘削断面積 (余掘含まず) (m2) 「の 75 80 85
	VII − 1 2 − ① − 3 ③283	VII−12−①−3 ③ 283

百	「市和3年4月1日―前以正)利旧対照衣 新	旧
below you limbels and the		
第Ⅶ編第12章 ①トンネルエ		
VII-12-①-4 (③284)	表4. 21補 ゲンプトラック運転「通常新画」 日本	表4.12補 f'yy' トラック運転
	振削方法 岩区分	据削方法 岩区分
	2. 2 < L ≤3. 0km (2月/(トン林延長) 1m当たり) 振削方法 岩区分 50 55 60 65 70 75 80 85 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	表4. 15補 ダンプトラック運転
	表4.30編 吹付コンクリート「通常断面」 設計図面に基づき、必要数量を計上する。	表4.17補 吹付コンクリート 設計図面に基づき、必要数量を計上する。
	表4.32補 設計吹付厚及びロス率「通常断面」 加背割 掘削区分 ⁽²⁾	表4.18補 設計吹付厚及びロス率 加背割 掘削区分 総計改付原(on) 余吹厚(om) はね返り率 ロス率 上下半
	表4.34補 コンクリート吹付機「通常断面」 (週/(トン林延長) 1m当たり) 振削方法 岩区分	表4.19補 コンクリート吹付機
	③284 VII-1 2-①-4	③ 284 VII-12-①-4

工作工事标中俱开丛中	(令和3年4月1日一部改止) 新旧対照表	
頁	新	旧
第Ⅷ編第12章		
①トンネルエ		
VII-12-(1)-5	表4,36補 吹付ブラント設備「通常新面」	表4. 20補 吹付プラント設備 (週/(トンネル延長) 1m当たり)
VII-12-①-5 (③285)	(週/(トンネル延長) 1m当たり)	掘削方法 岩区分
	- 振削方法 岩区分	Спа 0.043 0.045 0.047 0.049 0.051 0.053 0.055 0.057 補助べン Спь 0.047 0.049 0.051 0.053 0.055 0.057
	C II a 0.045 0.046 0.047 0.049 0.050 0.051 0.052 0.054 補助ベン C II b 0.049 0.050 0.051 0.053 0.054 0.055 0.056 0.058 チ付き全 D I a 0.058 0.060 0.061 0.062 0.063 0.065 0.067 0.068	新面工法 DIb 0.062 0.064 0.067 0.069 0.072 0.074 0.076 0.078
	断面工法 DIb 0.061 0.063 0.064 0.065 0.065 0.067 0.070 0.071	DI 0.062 0.064 0.068 0.069 0.072 0.076 0.078 0.080
	D II 0. 062 0. 064 0. 065 0. 066 0. 068 0. 071 0. 072	
	表4.38補 集座機装置運転「通常斯面」	表4.21補 集塵機装置運転 (週/(トンネル延長)1m当たり)
	(週/(トンネル延長) 1m当たり) 提削方法 岩区分 50 55 50 55 70 75 90 95 95 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	掘削方法 岩区分 <u>設計掘削断面積(余掘含まず) (m2)</u> 50 55 60 65 70 75 80 85
	CII a 0.045 0.046 0.047 0.049 0.050 0.051 0.052 0.054	CIA
	補助ペン CIb 0.049 0.050 0.051 0.053 0.054 0.055 0.056 0.058 チ付き全 DIa 0.058 0.060 0.061 0.062 0.063 0.065 0.067 0.068	チ付き全 DIa 0.059 0.061 0.064 0.066 0.068 0.070 0.073 0.074 断面工法 DIb 0.062 0.064 0.067 0.069 0.072 0.074 0.076 0.078
	断面工法 DIB 0.061 0.063 0.064 0.065 0.065 0.067 0.070 0.071 DI 0.062 0.064 0.065 0.065 0.066 0.068 0.071 0.072	DII 0.062 0.064 0.068 0.069 0.072 0.076 0.078 0.080
		表4.24補 ロックポルト
	表4. 42補・表4. 43補 ロックボルト「通常断面」	設計図面に基づき、必要数量を計上する。
	設計図面に基づき、必要数量を計上する。	次月四国に基って、少女が主で日エケ Wo
	表4.53補 H形鋼支保工「通常斯面」	表4.28補 H形鋼支保工
	設計図面に基づき、必要数量を計上する。	設計図面に基づき、必要数量を計上する。
	表4.58補 鏡吹付工施工費率「通常斷面」	*** 4 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
	()内の数値は、ずり出しにおいて運搬距離(片押し延長+坑外片道運搬距離)が1.2kmを超える場合は、ずり運搬距離が 1.2kmを超える部分に対して適用する。	表4.30補 鏡吹付工施工費率 ()内の数値は、ずり出しにおいて運搬距離(片押し延長+坑外片道運搬距離)が1.2kmを超える場合は、ずり運搬距離が
	1. ZRIIIを起える印がに対して週州する。	1.2kmを超える部分に対して適用する。 (%/(トンネル延長) 1m当たり)
	級門方法 石区分 石林 50 55 60 65 70 75 80 85	掘削方法 岩区分 名称 設計掘削断面積(余据含まず) (m2) 50 55 60 65 70 75 80 85
	CII a 鏡吹付施工労務費率 3 (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) 鏡吹付施工機械費率 12 12 12 15 15 15 16 16	鏡吹付施工労務費率 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4
	鏡吹付材料費率 21 21 22 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23	CII a (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4
	(CII b 鏡吹付施工労務費率 (5) (5) (6) (6) (6) (6) (7) (6) (6) (7) (6) (6) (7) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	鏡吹付施工労務費率 5 6 6 6 7 7 7 7 7 (6) (5) (5) (5) (6) (6) (6) (6) (6)
	一	CII b (5) (5) (5) (6)
	補助ベン デ付き全 断面工法 DIa 鏡吹付施工労務費率 5 (5) (5) (5) (6) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	カカラマン (金m/) (大阪工学) 3
	鏡吹付材料資率 34 34 35 37 38 39 40 41	デ付き全 DIa 鏡吹付施工機械費率 14 14 15 17 18 18 18
	カロ b 鏡吹付施工労務費率 5 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	鏡吹付施工労務費率 5 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6
	鏡吹付材料費率 32 32 33 35 36 37 37 38	DIb 鏡吹付施工機械費率 13 13 14 14 16 16 17 17
	鏡吹付施工労務費率 4 5 5 5 5 6 6 6 6 (6) (5) (5) (5) (5) (6) (6) (6)	類映付材料資率 32 32 33 35 36 37 37 38 37 38 38 38 38
	競吹付施工機械費率 15 16 17 19 19 20 20 22 鏡吹付材料費率 29 29 30 32 32 33 34 35	DI
]
]
]
]
	VII − 1 2 −① − 5 ③285	VII−12−①−5 ③ 285